



特定非営利活動法人

名古屋NGOセンター

2009 年度事業報告・2010 年度事業計画

目次

(1) 2 0 0 9 年度事業報告	2
(2) 2 0 0 9 年度会計報告 / 監査報告	30
(3) 2 0 1 0 年度事業計画	33
(4) 2 0 1 0 年度予算	42
資料(新加盟NGOの紹介)	43

総括

名古屋NGOセンターの長期目標である、「人がつながり動き出すネットワークを目指して～加盟団体相互の多様な分かち合いと協働の醸成～」を実現すべく2009年度は、重点項目～に沿って活動を行ってまいりました。

NGOの活動を支え、団体の自己解決能力やネットワーク作りを推進する活動

新たな試みとして、『地域NGOの「広報力」を高める研修』を実施しました。

これはNGOの資金調達能力の向上をめざし企画されたもので、約半年間で計7回実施した研修には11団体が参加しました。パンフレット作成段階における団体の広報戦略の策定・見直し、広報戦略に関する客観的な分析・評価のみならず、団体の設立意義や事業内容等の振り返りといった面でも効果があり、各団体の総合的な広報能力向上につながったと思われます。

また「アカウンタビリティセミナー」への協力や、「東海地域NGO活動助成金」の公募を通じて、この地域のNGOの信頼性、事業の企画・遂行、広報力の向上等の面でも貢献しました。

4年目を迎えた「NGOサポート事業」は、個別の団体が抱える課題を「共に」解決しながら、団体自身で課題を克服できるようなサポートを心がけています。

「横のつながりを作る勉強会」の呼びかけを引き続き行っており、「NGOの集い」も実施しました。

NGOの活動を支える人財を育成、育成された人財のNGOへの参加を促進する活動

2009年度で7期目となる「NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ」（通称Nたま）のプログラム内容について、ワールド・コラボ・フェスタなど他事業や委員会との連携を図りながら企画、実施しました。ワールド・コラボ・フェスタに参加したボランティアがNたまに参加する等、人材交流の効果もあがっています。2009年度のNたま卒業生の内、

8名が既にNGOで活躍しており、大きな成果をあげたといえます。

広報や開発教育を通じて、市民や企業、その他セクターのNGOへの理解を進め、NGO活動への支持・参加・協力を促進する活動

会報誌『さんぐりあ』とWEB、メールニュース等をより効果的に発信するために、発行回数の変更、ターゲットの精査、ユーザー増加のための広報を行いました。また会報の誌面をリニューアルし、広報担当者連絡会で効果的に調整できるようにしました。

NGO相談員出張サービスを利用して、大学の授業や各種イベントに出向き、NGOへの理解を促す活動を積極的に展開しています。

ワールド・コラボ・フェスタでは、参加型の企画をボランティアの協力を得ながら実施し、市民が参加できる機会を作りました。

活動する市民/団体(NGO/NPO)の意見を反映し、目指すべき社会を見据えた提言活動

加盟団体の声を聞き、NGOの声を発信する活動を行いました。

JICA-NGO定期協議会、外務省との政策協議会、ODA評価有識者会議、ODAパブリックフォーラム等の会議に参加しましたが、特にJICA-NGO定期協議会の名古屋開催では、Nたま生や加盟団体も参加して活発な議論が行われました。

また市民が学習する場として、政策提言分野の不連続学習会を開催し、COP10に取り組んでいる市民との意見交換会も開催しました。その中で、国際協力NGOが途上国の人々の立場を代弁する形でCOP10に参加してほしいとの期待の声が聞かれました。

NGO 活動とネットワーク活動を支える資金を安定して調達できるようにする活動

宗教法人真如苑の寄付で 2008 年度にスタートした「東海地域 NGO 活動助成金」の公募を引き続き実施し、NGO が使いやすい助成制度の仕組みを定着させるよう取り組みました。

昨年度より徐々に増加してきている企業からの寄付先コンサルティング依頼についても、成功事例を HP でアピールし、多くの企業・団体から問い合わせがくるよう積極的な広報に取り組んでいます。

最後に、2009 年度中に 3 つの新規団体が加わり、2009 年度末で加盟団体数は 47 団体となりました。活動の輪が広がっており、名古屋 NGO センターの重要性は増えています。

貧困・紛争・環境破壊などに取り組む活動を支援することによって、人権・平和・環境が守られる社会の創造を目指して歩みを続けていきます。

1. ネットワーキング

NGO間、あるいは、NGOと人びと、行政などの他セクターをつなぐネットワークを作る活動

1-1 NGO サポート事業

実施概要：

毎月案件を公募し、前年度からの継続3案件に、新規5案件を合わせ、8つの案件に取り組みました。モリコロ基金の「平成21年度 展開期・協働・大規模」の対象事業として助成して頂きました。

申込み団体と実施内容は以下のとおりです。

評価と課題：

各団体から頂いた終了後の評価シートによれば、目標設定やサポート実施のプロセス、成果において、概ね良い評価を頂くことができました。

センターの資源を集中させ、成果を最大限に引き出すため、サポートの件数を絞ってはどうかという意見が出ています。

*以下、表中の「団体側の評価」指標について
目標設定のプロセスについて

- 1、とても満足 2、満足 3、ふつう 4、満足できない
5、不適切で満足できない


サポート実施のプロセスについて

- 1、とても満足 2、満足 3、ふつう 4、満足できない
5、不適切で満足できない


成果について

- 1、十分に達成 2、達成 3、ふつう 4、達成できない
5、全く達成できていない

(特活)チェルノブイリ救援・中部 (前年度継続案件)	対象分野: 経理・会計・労務
サポートの申込内容: 弥生会計の操作方法、決算書の作り方など	
団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「1、とても満足」 サポート実施のプロセスについて: 「1、とても満足」 成果について: 「1、十分に達成」	

<p>実施概要：前年度は会計・経理に対する基礎知識を提供し、今年度は JICA アドバイザー派遣を活用し、会計専門家と共に、会計業務の簡素化・マニュアル化を図り、NPO 法人の事業報告書等作成の流れも確認しました。</p> <p>半年後となる 12 月には、作成したマニュアルを担当者が使いやすいかどうか、他に困っていることはないかなどフォローアップを行いました。マニュアルを活用して業務改善を図っていくことにより、今回の成果が組織に定着していることを心強く感じます。</p>		<p>団体の声：会計システムの構築がされて約 1 年が経ち、スムーズに日々の業務を行えるようになりました。簡素化できて時間に余裕ができた分、会計以外の業務も担えるようになりました。さらに、他のスタッフ間でも会計の話ができるようになり、会計と業務の関連性を明確にできるようになりました。</p> <p>事業後もサポート担当者の方には、会計についてわからないことがあれば相談ができ、わからないことを放置することがなくなりました。</p>
--	---	--

<p>NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会(前年度継続案件)</p>		<p>対象分野：IT / web</p>
<p>サポートの申込内容：ホームページの立ち上げから、諸手続きまで。</p>		
<p>団体側の評価： 目標設定のプロセスについて： サポート実施のプロセスについて： 成果について：</p>		
<p>実施概要：ホームページの立ち上げのために、基本的なパソコン操作およびホームページ作成にあたるプランを立てることが目的でした。途中、団体担当者のご都合により、サポート休止の申出がありました。</p>	<p>団体の声：団体担当者のご都合により、サポート休止。</p>	

<p>(特活)ボラみみより情報局 (前年度継続案件)</p>		<p>対象分野：広報・資金調達、その他(人材育成)</p>
<p>サポートの申込内容：弊団体に関わる「愛フェス」、「10 周年記念イベント」を通じて、一般市民や掲載団体に広く会員募集の PR を行い、新規会員を現在の約 200 名から 400 名の 2 倍にする。</p>		
<p>団体側の評価： 目標設定のプロセスについて：「1、とても満足」 サポート実施のプロセスについて：「1、とても満足」 成果について：「2、達成」</p>		
<p>実施概要：サポート事業の主目的は、新規会員獲得を目的とした「自主的に動く」チームづくり(2008 年度サポートしたメンバーを中心に)を行うことでした。</p> <p>具体的には「新規会員獲得チーム」の立ち上げサポートやアドバイスを行いました。団体の運営側としては、数字に表れやすい事業面での評価が重要視されがちですが、今回は「チームに関わる主要メンバーの想い」に重点を置きました。外部サポーターとして重要となるのは、メンバーの自主性を損なわぬような配慮をしつつプロジェクトを進めることだと考えたのです。2 年間、粘り強くプロジェクトを支えてきたリーダーが健在であり、今後の活躍がおおいに期待できるメンバーが複数いる現在のプロジェクト・チームは、サポート側にも大きな達成感をもたらしてくれました。</p>	<p>団体の声：参加メンバーの意識は確実に高まっていると感じる。数値のみでは見えない「人」の部分では大きな収穫があったと思う。以下はチームリーダーの感想。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員増加プロジェクトのリーダーとして関することで、組織全体のことを考え、さらに組織の社会に対する影響力と社会問題全般のことまでも考えるきっかけとなった。 ・また、ダイレクト・ダイアログという手法を学ぶ過程で、今まであまり関心のなかった広報の分野に取り組む面白さを感じる事ができた。 <p>今後は具体的な数値につなげること、より多くの人に関わってもらえるかが重要になる。</p>	

認定 NPO 法人 アジア日本相互交流センター	対象分野: 広報・資金調達
<p>サポートの申込内容: テーマ: 既存会員・寄付者の高継続率の達成</p> <p>「会員 95%、寄付者 80%の継続率」という団体の 2009 年度の目標を確実なものにするため、以下を希望する。</p> <p>団体内担当者で計画立案 その実施・フォロー 尚、月 2 回各 3 時間程度時間を希望</p>	
<p>団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「1、とても満足」</p> <p>サポート実施のプロセスについて: 「1、とても満足」 成果について: 「2、達成」</p>	
<p>実施概要: 申請目的は、「既存会員・寄付者の高継続率の達成」のため、申請団体の担当者と共に計画立案し、その実施・フォローを行うことでした。</p> <p>具体的な数値目標を設定し、それに対するアクション・スケジュールを設定し、2~3ヶ月後にそれが達成できたかどうかのチェック・評価・次の目標設定を行う、という工程を繰り返し行いました。</p> <p>9ヶ月間、外部者としての「客観性」は保ちつつも、共に課題を解決する「仲間」として伴走させて頂きました。</p>	<p>団体の声: これまででは、その場その場で対応してきたのですが、今回は年間を通して計画を立てることができました。そのことにより団体が設定した目標達成にも良い結果をもたらしてくれました。外部の方とそのプロセスを共有することによって、それまで個人的に「何となく」行ってきた経験が、分析表や成果物として目に見える形に残せ、「団体の経験」として共有できるようになりました。</p> <p>団体のことをよく知っていて、寄り添ってくれる「外部」の存在は、本当に重要だと実感しました。本当にありがとうございました。</p>

ACF JAPAN	対象分野: IT / web
<p>サポートの申込内容: スタッフの IT 技能向上と web による充実した広報活動を行うこと。ACF のホームページ内容、デザインの検討を行い、メンバーが HP 作成技術の取得をすること。</p>	
<p>団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「1、とても満足」</p> <p>サポート実施のプロセスについて: 「1、とても満足」 成果について: 「2、達成」</p>	
<p>実施概要: 「若者への情報発信を目的とした WEB 製作スキルの習得」を目指し WEB のプロ製作者であるアドバイザーに入って頂き、直接指導をして頂きました。(JICA アドバイザー派遣制度を利用)。アドバイザー派遣制度利用のための申請書作成アドバイスを行いました。指導概要は以下の 4 点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ACF JAPAN 課題の割り出しと整理 2. 課題解決のための広報戦略と広報ツールの学習 3. 寄付者募集のためのリーフレット製作、デザインソフト (Adobe イラストレーター) 操作指導 4. HP 製作を見込んだ無料ブログの設置とサイトマップ製作指導 	<p>団体の声: 無料ブログの設置は達成されました。ターゲットを中高年者とした、寄付・会員募集のリーフレットは素案までで、印刷には至りませんでした。その理由はサポート事業受講終了から、メンバーの総意を得られるまでの時間がなかったためです。現在、印刷に向けての協議作業中です。</p> <p>サポート事業全体としては、濃厚で充実した講習でした。企画していただきました名古屋 NGO センターさんに感謝いたします。私どものような ひよこ団体は一步一步のステップが必要です。皆様がたのサポートのおかげで、海外支援も順調に展開できるのでして今後もよろしくお願い申し上げます。</p>

ニカラグアの会	対象分野: 会計 / 個人情報保護・会員管理
サポートの申込内容: 個人情報保護の強化とデータ管理	
団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「2、満足」 サポート実施のプロセスについて: 「2、満足」 成果について: 「2、達成」	
実施概要: 会員名簿と会計の改善、データ管理の強化に取り組みました。名古屋 NGO センター及びチェルノブイリ救援・中部の事務所を訪問し、名簿の管理や会計の方法の事例を参考に、改善を図りました。	団体の声: 相談に乗っていただき、目標を明確にし、その次に、NGOセンターさんの事例から学び、しばらく期間こちらで準備期間を取っていただいた後、他の団体さん(チェルノブイリ救援・中部)の取り組みからも学ぶことができ、とても参考になりました。

(特活) 多文化共生リソースセンター・東海	対象分野: 会計・労務
サポートの申込内容: 団体運営に関わる経理・会計・労務	
団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「1、とても満足」 サポート実施のプロセスについて: 「1、とても満足」 成果について: 「2、達成」	
実施概要: 会計のしくみづくりに取り組みました。勘定科目を整理し、会計処理をする際に、統一して記入できるよう整備しました。また、小口現金を準備し、伝票に記入し、現金出納帳を作成し、エクセルにデータ入力を行い、会計状況を把握できるようにしました。	団体の声: 常に現状に合わせて、内容・スケジュールを組んでいただいたおかげで、月ごと、プロジェクトごとの収支が把握できるようになりました。また、小口現金・伝票・現金出納帳が整ったため、精算が遅れることが少なくなり、感謝しています。



DIFAR	対象分野: 組織運営
サポートの申込内容: 日本の事務局の健全な運営を目指す。日本国内の事務所の運営を見直したい。	
団体側の評価: 目標設定のプロセスについて: 「2、満足」 サポート実施のプロセスについて: 「2、満足」 成果について: 「2、達成」	
実施概要: ニカラグアの会やチェルノブイリ救援・中部の事務所を訪問し、会の運営方法や名簿の管理や会計の方法の事例などを伺い、事務局のあり方について検討しました。	団体の声: 短期間であったにもかかわらず、最初の面談で今できることを一緒に考えていただき、目標設定をし、その為の活動をするという流れでその事を達成できた。常に寄り添って、サポートをするという事柄だけではなく、心を添えたサポートという感じを受け、非常に有り難く心強かった。



1 - 2 NGO スタディツアー合同説明会

実施概要

日時: 6月13日(土) 14時~17時
 会場: JICA中部 セミナールームB
 参加者: 36名、出展団体: 8団体

評価と課題

ブースで熱心に耳を傾けている参加者が多く、それに応えようと団体スタッフの説明にも熱が入っていました。

終了後のアンケートによれば、「子どもたちとの交流」をツアーに期待する内容としてあげる人が依然として多くありました。一方、学生など若い年代層を中心に、この1~2年で急激に関心が高まっている「フェアトレード」をツアーに期待する内容としてあげる人が増えたことがわかりました。

「行きたいツアーはありましたか？」という設問に「はい」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「企画するNGOの活動内容に魅力を感じたから」、「説明してくれたNGOスタッフ

の感じが良くブースの雰囲気もよかったから」などといった回答が多くあり、対象国や内容だけではなく企画するNGOやそのスタッフを重視している傾向があることがわかりました。

昨年同様、「NGO活動への参加経験はない」と答えた方の割合が多く、スタディツアー合同説明会がNGO活動へ参加する大きなきっかけとなったようです。

残念ながら、定員の50名まで達することができませんでした。広報に更なる工夫が必要です。

1-3 (特活)アルシュ(自立を支援する会)との人材育成セミナーへの協力

実施概要：(特活)アルシュ(自立を支援する会)が行う「気軽に始める途上国支援セミナー~いのちと土を考える~」に実施協力を行ないました。第1回 6/20(土)テーマ：有機農業を学ぶ、第2回 6/27(土)

「テーマ：途上国への農業支援について学ぶ」、第3回 7/12(日)「テーマ：農家で学ぶ」が開催され、無事に終了しました。NGOセンターは企画ミーティングへの参加、当日の受付・記録を担当しました。

1-4 「横のつながりを作る勉強会」の呼びかけと参加

実施概要：この勉強会は、2008年8月30日に開催された中期計画作成の一環として開催した「これからのNGOを考える集い2008」がきっかけとなりました。

中期計画集会の分科会の一つ、第4分科会「なぜネットワークなのか？NGO相互の関係作りに向けて」において、もっと加盟団体に所属する者同士が、「お互いに学びあい、ざっくばらんに話し合える」場を作っていきたいという声があがり、分科会参加者が「呼びかけ人」となり、

スタートしました。(名古屋NGOセンターも呼びかけ人の一人。)

2009年度は全4回、ほぼ2ヶ月に1度のペースで開催されました(1月は事情により、不開催)。テーマや開催日、場所は、その都度集まった参加者で決定し、のべ24団体、31名が参加しました。

また、平日昼間に行われたことにより、これまで多かった平日夜や土日の事業に参加しにくい団体が集まりました。

回	日時/場所	タイトル/内容	参加者
第5回	5月26日(火)	なぜNGOを設立し、どう終了したか？ ASK片岡さんに聞く	6団体 9名
	COMBi 本陣 N106	バングラデシュを支援するNGOを立ち上げ、それを閉める、という一連の流れを片岡さんにお聞きした。	
第6回	7月14日(火)	各団体の活動紹介&運営上の悩み・うまくいったことなど	7団体 9名
	嶋田ビル302号 NGO共同事務所	国際相互理解を考える会の小久保さんに、活動紹介と悩みなどを語っていただいた。ニカラグアの会の紹介もするはずだったが、時間切れ。	
第7回	9月30日(火)	スタディツアーについて考える	7団体 9名
	COMBi 本陣 N106	主にスタディツアーを開催している団体さんに、スタディツアーの仕方・意義・問題点などについて、語っていただいた。	
第8回	11月25日(水)	国際理解・国際教育(通称Fカフェ)の挑戦!?	4団体

COMBi 本陣 N106	NIED&開発教育委員会の滝さんに、国際理解・国際教育の挑戦と題して、お話ししていただいた。	4名
---------------	--	----

*時間はいずれも、14:00-16:30

評価と課題

平日昼間に開催することで、平日夜や土・日の事業に参加するメンバーとは違う顔ぶれになっていますが、逆に平日夜や土・日なら参加できるメンバーが加われないという難点があります。また、テーマ設定も、その席に参加された方々のご意見から決めているということもあり、なかなか

うまく決まらず少し偏りがちなと感じています。

より多くの団体が参加できるような工夫が必要だと思っておりますので、今後は少し形態等も変えていくつもりです。

(執筆協力：ニカラグアの会 伊藤幸慶)

1-5 「地域ネットワークNGO調整会議」への参加

実施概要：2008年度から、9つのネットワークNGOが集まり、結成された会議で、各地から事務局職員が参加し、ネットワークNGOの特に経営における課題の情報・経験の共有を行いました。

評価と課題：今年は、外務省・JICAへのスキ

ーム改善提案やネットワークNGO自己財源確保について、具体的に担当者を交えて議論をすることができました。特に、外務省「NGO環境整備支援事業」については、加盟団体にご協力を頂いたアンケート結果を発表し、2010年度の事業に反映されるベースとなりました。

	日時/場所	内容	参加者
第2回	6月19日 早稲田奉仕園(東京)	各ネットワークNGOの「CSRの取り組み」「JICAや行政との連携」などについての情報共有をした後、ネットワークNGO間の連携で自己財源を獲得する仕組みや外務省環境整備事業にネットワークNGO支援策をどう盛り込むか、等について話し合いを行いました。各団体が持ち出して行っている地域NGOの一覧リスト作成を事業化できないか、等の提案がありました。また、「外務省NGO環境整備事業アンケート結果」を会議にて発表し、外務省側からは、現行の個々の事業に関する提案は制度の運用を変更して改善できることもあるので話し合いながら進めていきたいという回答がありました。	ネットワークNGO 9団体、12人
	2月24日 早稲田奉仕園(東京)	各ネットワークの課題共有、英国ネットワークNGO「BOND」事例発表、自治体国際化協会から地域ネットワークNGOとの連携の可能性について意見交換、JICA広報課・外務省民間援助連携室から事業方針と意見交換、次年度に向けて	ネットワークNGO 7団体、13人

1-6 「インターナショナル・チャリティ・フェスティバル(ウォーカーソン)」への出展

実施概要

日時：5月24日(日)10:00~16:00

場所：鶴舞公園 参加者：約2,500人

主催：在日米国商工会議所(ACCJ)、名古屋国際学園(NIS)

例年は名城公園で開催されていましたが、今年から鶴舞公園に場所を変えて開催されました。参加者は、鶴舞公園の敷地内を歩きます。参加費2,000円(総額382万円)は地域で活動する

NPO・NGOに寄付されます。企業協賛なども含め、27団体に総額で550万円が寄付されました。

名古屋NGOセンターもブース出展を行い、15万円の寄付を頂くことができました。頂いたお金は、Nたまの事業に使われました。

評価と課題：

ブースに訪れた方は30名で、NGOに参加してみたい、どんなNGOがあるのか知りたい、NGOとNPOの違いを教えてくださいなどといった質問を頂

きました。センターや加盟団体の活動を来場者に紹介することができ、新たな拡がりを感じる出展と

なりました。

1-7 「NGOの集い」の実施

実施概要

今年度は、「シリーズ・NGOの集い2009」と題して、12月～1月にかけて行われる事業と関連しつつ、行われました。第1回「NGO 間連携(横のつながりを作る勉強会)」(11/25)、第2回「政策提言(NGO-JICA 協議会)」(12/10)、第3回「反貧困&外国人(反貧困勉強会)」(12/13)、第4回「環境(環境 NGO ワークショップ)」(1/17)、最後に「NGO の集い大集会(1/24)」として、「横のつながりを作る勉強会」の成果、政策提

言、貧困、生物多様性、の中から事例や相談事を発表して頂き、今後のセンターが取り組むべき方針について話し合いました。(参加者 14 名)

評価と課題：

今年度は、連続シリーズとして行いましたが、逆に全体を統一するテーマが拡散してしまい、参加者への呼びかけが不十分となりました。来年度へ向けて実施方針を再検討する必要があります。

1-8 「COMBi本陣運営委員会」への参加

実施概要：隔月で行われる「COMBi本陣」(地域密着型ビジネス支援施設・事務所入居施設)の運営委員会に参加しました。本陣地域との連携、施設運営、文化祭(11/8)等の話し合いが行われましたが、本年は、入居団体間の

連携を深めるため、各団体の活動内容を知る会や会員募集の手法(ダイレクト・ダイアログ)を学ぶ勉強会が行われ参加しました。

評価と課題：入居者との交流やお互いの活動からの学びあいができました。

1-9 実行委員会、会議への派遣

今年度、委員として派遣した実行委員会、会議等は以下の通りです。

開催日	会議名	担当者
通年	なごや環境大学 運営委員	西井理事長
通年	アカウントビリティ・セミナー 助言委員会 委員	木村理事
通年	JICA 組織力アップ! NGO 人材育成研修 検討委員	竹内理事
通年	NGO・外務省定期協議会 ODA 政策協議会 コーディネーター	西井理事長
通年	NGO・外務省定期協議会 NGO 連携推進委員 副座長	野田理事
通年	外務省 ODA 評価有識者会議 委員	野田理事
通年	NGO・JICA 定期協議会 コーディネーター	清家理事
通年	(特活)レスキューストックヤード 評議委員	村山事務局長代理
通年	ワールド・コラボ・フェスタ実行委員	清家理事
通年	国際理解教育セミナーin なごや実行委員	斉藤委員、前田委員
通年	愛知県 NPO アドバイザー ((特活)ポラミみより情報局受託)	村山事務局長代理

1 - 10 声明・賛同・加盟・共催・協力・後援等

実施概要：
今年度は声明を発表する緊急事態はなく、他団体が行う下記の8件の事業へ協力・後援を行いました。

加盟団体からの申請は少なく、他の団体からの後援依頼が多くありました。これまで後援の審査基準についてあいまいだったことから、常任理事会でその基準を明確に決め、対応しました。

評価と課題：

賛同

11月28日～	「貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本」(仮称) GCAP Japan「フレンズ」登録
---------	---

加盟

3月31日～	生物多様性条約(CBD)市民ネットワークサポート会員
--------	----------------------------

共催

11月28日	ODA改革パブリックフォーラム
--------	-----------------

協力

6/20～7/12	(特活)アルシュ 主催 / 気軽にはじめる途上国支援セミナー
12月17日	(財)自治体国際化協会主催 / 平成21年度「地域における国際化推進フォーラム」

後援

6月～3月	(特活)アジア日本相互交流センター・ICAN 主催 / TULAY PROJECT PHASE2 子どもがつくる新しい地球のカタチ - 持続可能な社会構築のための「子どもの参加」
6月27日	(特活)アジア日本相互交流センター・ICAN 主催 / 児童労働勉強会
10月10日	愛知県青年海外協力隊を支援する会主催 / 第18回開発教育全国集会愛知大会2009
11月～2月	JICA 中部主催 / JICA 中部フェアトレード・カレッジ2009
2月20日	地球のステージなごや実行委員会 / 地球のステージ1 公演の開催
2月20日	(特活)アジア日本相互交流センター・ICAN 主催 / 東海フェアトレードフォーラム 09
3月20日	アンコール小児病院チャリティイベント実行委員会 / 第2回アンコール小児病院チャリティ講演会～カンボジアで生きる子どもたちの今～

1 - 11 ハイチの人々に愛の手を～チャリティ バレンタイン コンサート～

実施概要：

日時：2月11日(木・祝) 16:00～18:00
場所：布池文化センターセシリアホール
共催：カトリック名古屋教区社会福祉委員会
全席自由、入場無料
当日会場にて募金を募り、225,915円が集まりました。会場代、印刷代、事務管理費(15%)等を引いた収益金131,599円を、ハイチの復興支援に

取り組む中部地域のNGO3団体(ハイチの会、日本国際飢餓対策機構、ホープ・インターナショナル)に寄付しました。

評価と課題：地震発生から1ヵ月後という短い準備期間での開催でしたが、数多くの団体の協力を得て行うことができました。また出演者も合わせ300名程度の来場者があり、多くの方にハイチの被災状況を伝え、支援を募ることができました。

1 - 12 ハイチ緊急支援募金

実施概要：2010年1月12日、ハイチで発生した大地震の被災者を支援するため、緊急支援募金を

行い、合計103,455円のご寄付を頂きました。(期間：1月24日～3月31日)寄せられた募金はハイチ

の復興支援に取り組む中部地域のNGO3団体（ハイチの会、日本国際飢餓対策機構、ホープ・インターナショナル）に寄付しました。

評価と課題：地震発生後、東海地域でハイチを支援する団体の情報収集を行い、HPで呼びかけを

行いました。市民の「何かしたい」という思いに応えるべく、寄付の募集と合わせて活動団体や街頭募金活動の紹介を迅速に行うことができました。このような大規模な災害にどのように対応していくか、今後検討していく必要があります。

1 - 13 中部・北陸ブロック「環境NGO・NPOワークショップ」

実施概要

日時：2010年1月17日(日)10:00～16:30

会場：JICA中部なごや地球ひろば

参加者：39名

独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金が主催で委託先を募集し、名古屋NGOセンターは2009年度、この事業に応募し採択され、委託事業として行いました。「生物多様性保全における

NGOの果たすべき役割～COP10に向けて～」をテーマとし、生物多様性保全におけるNGOの果たすべき役割を参加者と共に考えました。一般的に「生物多様性」と聞くと“環境問題”“生物の保護”が連想されますが、本ワークショップでは生物多様性を“南北問題”“貧困問題”として捉えなおし、生物多様性保全におけるNGOの果たすべき役割を参加者と共に考えました。

時間	内容	テーマ	発表者
10:15～11:00	基調講演	「NGOが生物多様性の保全に取り組むために」	(特活)チェルノブイリ救援・中部 河田昌東 氏
11:00～12:15	ワークショップ	・生物多様性 なぜ大切か～もしも生物多様性が損なわれたら？ ・生物多様性 なぜ損なわれているか～その原因を探ろう！	(特活)NIED・国際理解教育センター：伊沢令子 氏
12:15～13:15	休憩		
13:15～14:40	事例発表	NGO 活動事例発表	1.南遊の会：藤本潔 氏 2.(特活)ソムニード：竹内ゆみ子氏 3.アジア日本相互交流センター・ICAN：斉藤順子氏 4.アジア保健研修所(AHI)： 林かぐみ 氏
14:40～16:20	ワークショップ	・生物多様性保全と南遊の会/AHI/ソムニード/ICANの取組み ・生物多様性の保全に役立つこと ・生物多様性の保全におけるNGOの果たすべき役割	(特活)NIED・国際理解教育センター：伊沢令子 氏
16:20～16:30	まとめ	今後のCOP10に向けての動き	アジア保健研修所(AHI)： 林かぐみ 氏

評価と課題

本ワークショップにてCOP10についての取り組みを加盟団体と話す上での基盤づくりが出来ました。また、この地域にあるCOP10に取り組んでいる団体とのネットワーク作りが出来ました。10月に名古屋で開催される生物多様性

条約締結国会議(CBD-COP10)に向けて、加盟団体を中心に地域NGOと共にどうやって取り組んでいくのか。また、生物多様性条約に謳われている途上国における社会開発と貧困撲滅へどのように取り組みを行うかが課題となりました。

2. コンサルティング

市民やNGOとの対話を通じ、NGOの組織・運営・活動の向上をはかる活動

2 - 1 NGOに関する相談

実施概要：今年度も、5月～3月は「外務省NGO相談員」制度を活用し、中部地域におけるNGO・国際協力活動について相談を受け付けました。

年間相談件数は**612件**。主な相談者は、**NGO：222件**、学生：130件、会社員：60件、企業：26件、行政：40件でした。また、出張相談については8件実施しました。大学での講演やNPO・ボランティアフェスティバル等大規模イベントへの相談コーナーの設置を通じて、より市民の方々にNGOを理解していただくよう努めました。また、

第1回6月18日～19日（東京）、第2回11月19日～20日（岡山）にて行われた相談員連絡会議に出席し、相談員間での連携や相談員制度自体の改善に向けて議論しました。

評価と課題：相談員連絡会議では、制度の「質の評価」を目指し、相談者に対応の感想や評価を書いて頂く「フィードバックシート」の提案を行いました。また、相談員の複数年度受託など今後改善していくべき提案を話し合うことができました。

時期	出張先	形態	実施概要
5月	国際チャリティフェスティバル2009（ウォーカーソン）	相談対応サービス	ブースで、NGOに興味がある、ボランティアしたい、スタディツアーに参加したいなど、国際協力に関心のある参加者を対象に、相談コーナーを設けた。
6月	愛知淑徳大学「国際ボランティア論」	セミナー	海外ボランティアやスタディツアーに関心のある学生向けに、スタディツアーの概要を説明し、実際にツアーを実施する中部地域のNGOが自団体のツアーを説明した。
7月	ボラみ展 in 愛知淑徳大学CCC	相談対応サービス	ボランティアを募集している団体の紹介、スタディツアーやワークキャンプ、里親など誰でも参加できるプログラム紹介、来場者参加型の世界を知るクイズなどで来場者に国際理解を促す活動を行った。
10月	ワールド・コラボ・フェスタ2009	相談対応サービス	名古屋NGOセンターブースにて、NGO、国際貢献に関する団体やボランティア活動の紹介をした。
10月	JICAボランティア秋募集説明会	相談対応サービス	ブースにて、地域で参加可能な国際協力ボランティア活動の紹介、海外に行く前に経験しておいた方がいいことなどをお話した。
11月	第4回 COMBi本陣文化祭	相談対応サービス	NGO相談員コーナーでは、来場者に世界と自分のつながりを考え、国際協力活動やNGO活動を楽しみながら知っていただけるように参加型企画「世界まるわかりクイズ」を行った。より詳しくNGOについて知りたい、活動を始めたいといった人への相談対応を行った。
11月	2日で学べる 国際協力カレッジ2009～NGO、フェアトレード、国際機関、JICA・青年海外協力隊～	相談対応サービス	国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人と、ボランティアやインターンを募集中の21の国際協力団体とのマッチングを行う「ボランティア・インターン マッチング展」への相談ブース出展を行った。
3月	ボランティア・NPOフェスタなごや2010～ボランティア活動発表会&相談会～	相談対応サービス	国際協力の分野での活動発表とブース出展を行い、ブースには、国際協力やNGOに関心のある一般市民など19人が相談に訪れ、アドバイスや情報の提供を行った。

2 - 2 訪問受入・セミナー等講師

実施概要：以下の学校等への講師派遣及び訪問受入を行いました。合計で、10団体、188名でした。

評価と課題：後日学校等から頂いたお礼状などから、学生や生徒たちにとって、学びの多い場を提供することができたようです。

依頼があれば訪問やセミナーの講師を引き受け、言わば受身の姿勢となっているのが現状です。昨年より課題とされた、ホームページでの情報発信の充実については、改善することができず、積み残しとなっています。

訪問受入

7/14(火)	日本国際協力 センターオース 研修生	センターの事業、運営等について	1名
10/16(金)	学校法人 聖カタリナ学園 光ヶ丘女子高等学校	センターの活動、これまでの成果等について	7名
10/22(木)	犬山市立 犬山中学校1年生	貧しい国の人たちに何が出来るか	4名
10/29(木)	江南市立 宮田中学校1年生	自分たちにできることを見つけよう	5名
1/19(火)	学校法人 金城学院大学	センターの活動、南北問題、心理的ケアについて	1名
1/19(火)	名古屋大学大学院 国際開発研究科学生	運営資金、ネットワーク、他団体との連携について	10名
3/16(火)	四日市市立 港中学校	センターの活動、貧困、人権活動について	10名

セミナー等講師

7/25(土)	ACHAN JAPAN	スタディツアー事前説明会「ボランティア・NGOについて」をテーマに20分程度講演を行った。	10名
1/9(土)	JICA国際協力人材センター主催「国際協力人材セミナーin中部」	「東海地域でのNGO参加の可能性」をテーマに20分の講演と、3時間程度の相談コーナー対応を行った。	100名
3/10(水)	JANIC「生物多様性COP10では何が争点になるのか」	講師として山崎理事を派遣「名古屋からの声～COP10に向けた準備状況と来年に向けた意気込み」について発表	40名

3. 情報収集・発信

NGOの持つ情報・経験を収集し、地域やNGOへ積極的に発信する活動

3 - 1 ホームページ

実施概要：今年度は新しくボランティアメンバーが加わり、週1回の更新が定着しました。加盟団体のイベント情報などを定期的に掲載することができました。1年間の合計アクセス件数 11,205 件、月平均 934 件でした。

評価と課題：毎週末更新が定着し、届いた情報をすぐにアップする体制がとれるようになりました。しかし、逆に掲載する情報の数が年間 53 件と少ないため、HPに掲載するメリットをアピールし、情報募集に力を入れる必要があります。

ボランティア：石川博仁、行方宏美

3-2 書籍コーナー

実施概要：事務所の書籍を訪問者に貸し出しました。貸出冊数：47冊

評価と課題：書籍を借りていく人は、会員やNたまなど事業の参加者が多く、初めてセンターを訪問された方への貸し出し件数はあまり

ありません。

昨年からの課題であった、個人情報保護の観点による貸し出し方法の改善については、4月の段階で改善することができ、通年を通して個人情報の管理を行うことができました。

3-3 会報『さんぐりあ』発行・発送 / 会報編集委員会

メンバー：市川隆之、大倉亜也加、鎌倉志保、神谷歩実、雑賀昭、佐藤則子、中山雄史、額公一、久由起枝、肥夏美優、古川春南、古川アンナ、水谷洋子、吉川陽子、ワング・ベン

実施概要：以下の通り発行しました。

4月号 特集「不況に喘ぐ外国人労働者」

7月号 特集「中期計画」

10月号 特集「マイクロクレジット」

1月号 特集「フェアトレード」

毎号1000もしくは1300部の発行を行い、約190の関係先団体、約150の個人会員、また46の加盟団体宛に発送しました。また、発送には延べ42人のボランティアに作業のご協力をいただきました。1回の発行に編集会議は最低5回、年間20回の会議を行いました。

本年度の紙面構成は従来からの企画、“NGOトーク 理事が聞く”Nたまのその後を追ったインタビュー記事“Nたまの今”、加盟団体のホットな話題を掲載した“加盟団体だより”を連載しました。また、新コーナーとして加盟団体の「スタディツアー体験記」、「NGOの散歩道」、「NGOノウハウ集」など読み物を増やしました。

評価と課題：

・2008年度までは年6回発行(12ページ)でしたが、イベント情報などの速報性が求められるものについてはwebに移行することとして、年4回発行(16ページ)としました。そのため時間を掛けて会議で議論することができるようになりました。

・レイアウトしたものをpdfファイルにしてファイルバンク（WEB上のデータ管理システム）にアップすることにより、校正作業の効率化を行うことができました。

・委員会の活動が見えにくいという意見があったことから「委員会だより」のページを新設して、活動をアピールするようになりました。

・特に後半は会議に出席する編集委員も増えて(7~9名)、議論が活性化しました。さらに校正ミスがほとんど皆無になるなど、広報の質が向上しました。

・8年間編集長をしていただいた水谷洋子さんが理事退任を機に編集長も退任することになり、丹羽輝明が編集長を引き継ぎました。

テーマについて深い議論を行えた反面、文章作成・編集技術などのスキルアップの時間がとれなかったことが今後の課題と思います。

*会報『さんぐりあ』の編集作業は会報編集委員会で行っています。

4. 調査研究

地域や世界の動きをモニターし、発掘した情報を整理、分析してNGO活動に役立てる活動

4 - 1 アカウンタビリティ・セミナー

実施概要： NGOのアカウンタビリティの向上のため、アカウンタビリティ・ガイド(冊子)の作成と、アカウンタビリティ・セミナーの実施の2本柱で外務省が受託団体を公募し、国際協力 NGO センター (JANIC) が受託しました。

東京で行われた全体のコンセプトについて検討する会議に参加しました。当センターは、JANIC の協力団体として、検証委員の推薦と、中部地域における事前調査、検証ワークショップ、セミナーの実施を担当しました。

助言委員の推薦

JANIC 事務局のコンセプトに助言を行う助言委員会の委員に、当センターの木村真樹理事を推薦しました。助言委員会は、7/24 と 9/15 に東京で行われました。

事前調査

中部地域の NGO6 団体にヒアリングを実施し、アカウンタビリティ向上のための取り組みを調査した。

日時：8/21、9/4、9/7

調査に協力して下さった団体は、以下の6団体。(認定 NPO 法人) アジア日本相互交流センター / イカオ・アコ / (特) 地域国際活動研究センター / (特) チェルノブイリ救援・中部 / ニカラグアの会 / (特) ホープ・インターナショナル開発機構

検証ワークショップ

アカウンタビリティ・ガイド(案)の検証のため、(特) チェルノブイリ救援・中部 (特) 地域国際活動研究センターニカラグアの会の3団体に参加して頂き、ワークショップを実施しました。

セミナー実施

「人もお金もナイからアカウンタビリティが果たせない…から、人もお金もナイからアカウンタビリティを果たす NGO へ！」と題し、セミナーを実施しました。

日時：2/13(土) 13:30 ~ 17:00

場所：COMBi 本陣 N106、参加者：10 名

進行役：木村真樹理事

ゲスト：(社) アムネスティ・インターナショナルわやグループの久富恵雄氏、(株) バリオースの中山学氏、(株) デンソーの岩原明彦氏

評価と課題：

アムネスティ・インターナショナルの会員拡大の取り組みの話を伺いました。アムネスティが2年間でおよそ1,500人の会員を新規に獲得した「ダイレクト・ダイアログ」という手法は、駅前など街頭に出向いて会員を募るものです。

終了後のアンケートから、「すべての人が潜在的なサポーターという理解と、直接対話のためにどんどん外へ出て行く姿勢には、自分の欠けているところを見た思いです」などというコメントを頂くことができました。

4 - 2 ネットワークNGOのあり方調査

実施概要： 外務省環境整備事業NGO研究会「ネットワークNGOのあり方」(受託：(財) 北海道国際交流センター) への協力を行いました。「地方におけるネットワークNGOの課題と可能性を追及し、地方のネットワークNGOのあり方を示すこと

によって、日本全体のネットワークNGOの強化につなげる」ことが目的です。

地域ネットワークの先駆事例として「NPO愛知ネット」「地域福祉サポートちた」へのヒアリング調査協力を行いました。また、2/23(火)東京、

3/18(木) 函館でシンポジウム「ネットワーク NGO・NPOの自律的な経営はどこまで可能か」が行われ、Nたま研修の事例発表をしました。

評価と課題:今回初めて、ネットワーク NGO/NPO の経営について本格的に議論をするシンポジウムとなりました。ネットワーク NGO の経営において重要なこととして「自分たちのビジ

ョンの明確化と計画性をもつ」「多様な財源を確保する努力を怠らない」「資金の作り方の中でも 会費、寄付、事業収入、行政からの資金について留意すべき点」などが話し合わせ、参加する意義があった会議であると感じています。

5. 政策提言

政治や行政の場に、あらゆる人びとの声が政策決定に活かされるような提言を行う活動

5 - 1 NGO-JICA協議会

実施概要:09年度は4回定期協議会がもたれました。3回は東京で、1回を12月に名古屋(JICA中部)で開催されました。Nたま生や加盟団体の担当の方々によって活発な議論がなされました。

評価と課題:名古屋の加盟団体の皆様から意見をいただき、特に「草の根技術協力」の終了段階でNGOとJICAが、お互いが評価をし合う仕組み作りができたことは大きな進歩でした。また、

JICA基金の運用の分科会が設置され、NGOのメンバーが運用の選考に関わることになりました。今後ボランティア貯金などの使われ方に注視していくことが必要です。



5 - 2 NGO・外務省定期協議会(ODA政策協議会)

実施概要:NGO 外務省定期協議会/ODA 政策協議会のコーディネーターとして、議題の調整、外務省との事前調整、協議会当日の会議の運営などに取り組みました。協議会は7月24日、12月4日、2010年3月9日に開催されました。

会議では、ODA 中期政策改定への市民参加、対カンボジア ODA における強制立ち退きの問題、イラク復興支援の評価、ODA のあり方の見直し

などについて協議を行いました。

評価と課題:外務省による ODA のあり方の見直しへの具体策が示され、ODA の質が変化しようとしている状況において、中央から離れた地域の市民や中小の NGO の意見を政策に反映する議論を行ないました。NGO 側から示された事前質問に対する外務省側の対応が不十分なため、議論が深められない側面がありました。

5 - 3 NGO・外務省定期協議会(NGO連携推進委員会)

実施概要:NGO 外務省定期協議会の一環として設置されており、野田理事が連携推進委員会副座長として、「2008年度振り返り」(4月9日)、全体会(6月29日)、「連携推進委員会」(5月18

日、9月15日、2010年2月17日)、「日本 NGO 連携無償意見交換会」(2010年1月17日)とこれらの事前打合に、政策提言委員会での議論や加盟団体の皆様からのご意見等を踏まえて参加し、

その成果をフィードバックしてきました。連携推進委員会では、「地域の NGO/市民の視点」から、NGO 能力強化 5 ヵ年計画、NGO 連携無償、NGO 環境整備事業などの改善について議論を行いました。

評価と課題：本年度はこれまでも増して、地域の中小の NGO の重要性と連携につき力説し、他のネットワーク NGO から高い評価をえました。また、外務省からも「地域の中小の NGO と

の連携に関する具体的提案をもらえば、前向きに検討する」との確約を引き出しました。政権交代にともない、政務三役および国際協力局長をはじめ事務方の責任者が出席するようになり、地域の NGO の声はより直接的に外務省に届くようになってきています。今は大きなチャンスの時期であり、ひきつづき地域の NGO/市民社会の発展のために、頑張っていきたいと思います。

5 - 4 ODA評価有識者会議

実施概要：外務省国際協力局長の諮問機関として同会議が設置されており、NGO代表として野田理事が参加しています。政策レベルの評価（国別評価、重点課題別評価等）をおこない、国際協力局長に提言を行う一方、外務省は提言のフォローアップも行い、わが国のODA政策のPDCAサイクルに直接NGOの声を反映させてきました。本年度は「Bangladesh国別評価」を担当し、現地調査の際はグラミン銀行のユヌス博士（ノーベル平和賞受賞）と

も意見交換を行いました。

評価と課題：「NGO大国」Bangladeshを事例に、NGOやソーシャルビジネス等市民社会の重要性および現地ODAタスクフォースの抜本的改革について提言を行いました。残念ながら、本有識者会議は年度末を持って廃止となりましたが、今後についても新たな形でODA評価にNGO/市民社会の参加できるよう要請し、前向きの回答を得ています。

5 - 5 不連続学習会の開催

実施概要：昨年に引き続き名古屋NGOセンターの政策提言分野における知識を深め、また同時に新しい仲間を増やしていく目的で実施しました。

評価と課題：昨年度1度しか開催しませんが、政策提言を定着するためにもこのような取り組みは今後とも必要です。

実施日	タイトル	参加者
1月28日	「ODAを考える」 JICA中部 稲葉所長を迎えて	15名

5 - 6 ODAパブリックフォーラムへの参加

実施概要：11月28日午後に西井委員長、神野委員、中島委員が参加しました。このフォーラムでは、国際的な援助動向を踏まえて、日本のODAの課題と実施体制の見直しについて議論しました。

評価と課題：当日の全体会のディスカッションで神野委員からの質問が投げかけられ、地方のネ

ットワークNGOのこの課題への関心の高さを示すことができました。また、1月28日に開催された名古屋NGOセンター政策提言委員会主催不連続学習会「ODAを考える」において、中島委員からこのフォーラムの概要報告と議論のポイントが投げかけられました。

5 - 7 政策提言委員会

メンバー：神野英樹、清家弘久、竹内宏、龍田成人、中島隆宏、西井和裕、野田真里、山本みはぎ（五十音順）

実施概要：毎月1回、定例会を開催。外務省及び国際協力機構との定期協議会に関する議論を中心に会議を行ないました。今年度は、地域の中小のNGOの声を中央に伝えるための取り組みを

重点的に行ないました。

評価と課題：加盟団体との意見交換の場を設け、地域の中小のNGOの意見や課題について共有する機会を作りました。外務省のNGO連携策に反映させるための、具体的な政策作りを今後行なっていきます。また、市民、NGOとの意見交流の場として、不連続学習会を開催していきます。

6. 開発教育 / 国際理解教育

地球上の多くの人々が直面する貧困・抑圧・差別などの問題と、私たち自身の暮らしのあり方との密接な関係について、理解を広げ、行動を起こすための活動

6 - 1 ワールド・コロボ・フェスタ

実施概要：2008年度から主催者として、実行委員会の構成団体の一つに加わり、清家弘久理事が実行委員として意思決定に参画しました。毎月1~2回実施される企画会議へ職員が出席し、フェスタ全体の企画・運営について議論しました。

二日間の総来場者は78,000人。各企画の参加団体数は、ワールドステージ出演団体(33)、コロボ広場出展団体(19)、NGOブース出展団体(56)、ワールドカフェ出展団体(10)内、加盟団体の出展は16団体でした。

名古屋NGOセンターの担当した企画は、もちの木ひろば「コロボ・ワクワク体験村」、オアシス21銀河の広場のワールドステージ「コロボ・ワクワク体験村紹介」、セミナースペース「NGOプチ入門講座」、オアシスコラボひろば「名古屋NGOセンターブース」の4つです。詳しくは、以下の表をご覧ください。

2008度のコロボ・ワクワク体験村は、ワールド・コロボ・フェスタ実行委員会が主催となって取り組んでいましたが、今年度から名古屋NGO

センターが単独での主催となり、(独)環境再生保全機構 地球環境基金からの助成を受けて活動を行いました。ボランティアを一般公募することにより、企画づくりのプロセスに市民が参加できるしくみを取り入れ、世界の現状と課題を来場者に伝えられるよう、企画を練り上げる村づくりワークショップを開催しました。

また、この企画作りをNたまの『「知る側」から「伝える側」へ』という研修として、事業間での連携を図りました。

評価と課題：2009年度は天候にも恵まれたこともあり、過去最高である78,000人が来場され、アンケートでも評価はととも高く、来場者に世界の現状を伝えることが出来ました。しかし、ワールド・コロボ・フェスタ実行委員会としては不況の中、協賛金集めなど苦労も多いのが現状です。また、名古屋NGOセンターとしては、すべての人件費を持ち出しており、その持ち出しに見合った成果をどう実現するか、課題が残りました。

日時	企画名（開催場所）	タイトル	実施内容	来場者数
10/24、 25	コラボ・ワクワク体験村（もちの木ひろば）	どきどきブース	コラボ・ワクワク体験村の村民証をもらい、世界をまるわかりクイズにチャレンジし、フェアトレードパズルをし、世界の貧困・環境破壊などのつながりを感じ、ブースを周り出展 NGO の話を聞こう。	385 名
		ワクワクサロン	出展 NGOの中から希望団体を募り、ワークショップを実施。11 団体が参加。クイズ、紙芝居、ゲームなども盛り込み、学びの場を提供した。	332 名
10/24	ワールドステージ（銀河の広場）	第 6 回ステファニ・レナト賞表彰式	社会的弱者の尊厳を守る活動をしている団体や個人の偉業を称えるステファニ・レナト賞の発表と、受賞者の活動を紹介。	80 名
10/25		コラボ・ワクワク体験村のビデオ上映	コラボ・ワクワク体験村の「どきどきブース」と「ワクワクサロン」の紹介をした。	50 名
10/25	セミナースペース（銀河の広場）	NGO プチ入門講座	NGO の基礎知識がわかるセミナーを実施した。N 時まで名古屋 NGO センターのインターン生が担当した。	50 名
10/24、 25	名古屋 NGO センターブース（オアシス 21「銀河の広場」）	あなたが選ぶ！NGO パンフレット・コンテスト	地域の NGO 11 団体がパンフレットをリニューアルしました！「あなたが選ぶ NGO パンフレット・コンテスト」を行い、来場者の方には各団体へのメッセージを書いてもらいました。	30 名
		NGO 相談員による出張相談	NGO って何？どんな活動をしているか知りたい、海外でボランティアしたい、NGO でインターンを希望・・・など、来場者からの NGO に関する相談を受け付けました。	50 名

6 - 2 国際理解教育セミナー ～地球まるごと健康診断～

実施概要

日時：1月23日（土）10：00～16：00

会場：名古屋国際センターホール他

参加者：74 名

例年同様、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、JICA 中部、（特活）NIED 国際理解教育センターとともに実行委員会を構成し、セミナーを開催しました。実行委員には、国際理解・開発教育委員会からメンバーが参加しました。また、実行委員会の事務局を担当し、チラシ作成・広報・申込み受付・会計・報告書作成等を担当しました。

評価と課題

参加者 74 名の内訳は、日本人 62 名、外国人 12

名で、また、小学生～高校生 10 名、一般 64 名と、幅広い参加層でした。外国人と子どもの参加が定着してきたと言えます。

地球まるごと健康診断と題し、地球が抱える現状・課題を診断し、処方箋を書くというコンセプトで企画しました。アンケートからは、「個人の考えを伝え合う作業から、たくさんの学びを得ることができた」など、全体的に良い評価を頂くことができました。

一方、参加者の中には、今後の自分の活動の場所を探している人も多く、人材を求めている団体とのマッチングが必要です。来年は、マッチングの時間を設け、対応していくことが、実行委員会の振り返りの場で話し合われました。

6 - 3 出前講座における講師（ファシリテーター）派遣

実施概要：

以下の学校・大学への講師派遣を行いました。授業は参加型で学べるワークショップ形式を取り

入れ、その進行ができる講師を派遣しました。合計で4団体、161名でした。

評価と課題：

新規に千成小学校からワークショップの出前講座を依頼され、講師を派遣しました。開発教育委員のメンバー3人を講師として派遣し、ワークショップを実施しました。

出前講座を依頼される数が減少してきています。積極的な広報を行っていく必要があり、出前講座における申込フォーマットの作成と提供可能なワークショップの整理を行いました。

日時	依頼者	内容	講師名	参加者数
8/3~6	京都精華大学	一人ひとりがつくる持続可能な社会、未来をつくる学びのファシリテーターになろう	桜井温子、希代翔	15名
6/7	愛知高校	私の隣のガイコクジン	希代翔	26名
6/24(水) 10:45-12:30	千成小学校6年生 + 保護者	「世界がもし100人の村だったら」をテーマにワークショップを実施	桜井温子、瀬尾さとみ、田口裕晃	70名
10/10	開発教育全国集会	多文化共生のワークショップ	希代翔	50名

6 - 4 NGO入門講座

実施概要：7/25(土)Nたま説明会にて「NGOスタッフの仕事とは？」(参加者46名)10/25(日)ワールド・コラボ・フェスタわくわくサロン内にて「NGOプチ入門講座」(参加者約50名)を行いました。Nたま説明会では、NGOに関心のある方々にNGOスタッフとしての仕事を魅力的に感じてもらえること、また、ワールド・コラボ・フェスタでは、世界の問題、NGO活動をもつ

と身近に、自分と結びつけ考えられるようなきっかけをつくることを目的としました。

評価と課題：ワールド・コラボ・フェスタでは、Nたまインターン生が最初に取り組む仕事として定着し、市民に伝えたいことを企画として表す練習を職員と一緒にしています。当日は50人を超える来場者が集まり、NGOの活動を広く伝える機会となりました。

6 - 5 国際理解・開発教育委員会

メンバー：野田真里(委員長)、滝栄一(委員長代行)、希代翔、桜井温子、田中千賀子、斉藤順子、前田直人、戸村京子、田口裕晃、村山佳江(事務局)、伊沢令子(アドバイザー)

実施概要：当委員会は上記の事業を中心とした活動を主体に、月例委員会(第3火曜日を基本)で全体の調整を行っています。09年度の委員会は、8月を除いた計11回行われました。また、1日かけて会議を行う「まるっとFカフェ」も2回行われました。

その他では、今年度は活動を広報するリーフレッ

トを作成しました。どんな人でも関わることができる活動であることを伝えるため、デザインには気を使いました。また他に、興味を持った人が分かりやすいよう「国際理解・開発教育委員会活動指針」をまとめました。

評価と課題：リーフレットや活動指針を作成したことによって、外部から国際理解・開発教育委員会が分かりやすくなり、伝えやすくなりました。同時に今後はこれらのツールを使い、いかに市民や他の団体に向けてアピールしていくかが課題となりました。

7. 人材・活動育成

地域の人々のNGO活動を生み出し、育む活動

7-1 次世代のNGOを育成するコミュニティ・カレッジ(Nたま)

実施概要：

7期目となった今年は、昨年度の反省点であったBコースの設定内容の見直しを行いました。新たに、「実践」の場としてワールド・コラボ・フェスタでのボランティア体験、地域NGOの事務所を訪問しスタッフの方からお話を聞くプログラムを増やしました。また、高山での国内フィールドワークにはBコースも含めた全員が参加し、農村と都市とのつながりを現場で考えることで「途上国」と「先進国」との関係性やNGO活動をする上での自分自身の関わりや立ち位置についても学びました。また、4名の修了生が修了式に参加し、現役生に向けての励ましの言葉を伝えるなど縦のつながりも作ることができました。

評価と課題：今年度は研修の軸としてマネジメント能力を高める講座での自主企画作りを3回にわけて行いました。その結果、研修終了後も継続して企画を実施するグループも生まれましたが、全体として合宿終了後にどのようにフォローするかが課題です。また、一人ひとりの進路や精神的な面でのサポートが担当するメンバーが圧倒的に少なく、今後の課題となりました。

研修の概要 Aコース(有給スタッフ希望コース)10人、Bコース(無給スタッフ・ボランティア希望コース)7人の研修生が参加しました。



	Aコース	Bコース
実践	【インターンシップ】 8月末～1月まで、8団体からの受入協力を得て実施。 	【ワールドコラボフェスタでの「伝え手」体験】 「コラボ・ワクワク体験村」にて世界の課題を伝える体験をしました。 【NGO事務所訪問】 土日を中心に加盟団体9団体の事務所を訪問し、作業のお手伝いも行いました。
理論	【課題別講座】 全53講座からの選択制。加盟団体など20団体の協力により実施 【マネジメント能力を高める研修】 10/18、11/14、12/5～6@合宿 AHI の合計3回にわたって「問題意識、変えたい社会像や活動イメージ」を掘下げ、企画のテーマを設定した。コンセプトや対象者を絞り込み、企画の実施に向けて企画書を作成した。	
フィールドワーク	【国内フィールド】 10/31～11/2に実施。(特活)ソムニードと共に、飛騨市上宝村の「まんま農場」「田宴舎」にご協力を頂き、「持続可能な地域作りにおけるNGOの果たすべき役割」を探ることを通して、NGOの役割、地域開発における必要な視点などについて学んだ。	
	【国内フィールド】 1/14、21に実施、ささしま共生会の協力のもと、国内にある貧困、格差の問題と世界の貧困問題をつなげて考えられるよう、事前講義と実際に炊き出しに参加した。	
修了式	3/14、COMBi本陣にて修了式を行いました。加盟団体7団体、過去のNたま修了生なども参加し、Nたま生の成果発表の後、激励が送られた。	

7-2 NGO事前1日研修+国際協力カレッジ(地域NGO型トータル人材育成事業)

概要：「国際協力カレッジ」については、名古屋NGOセンターとJICA中部との協働により2006年からスタートし、過去3回実施しました。特に2008年度に実施した「ボランティア・インターン マッチング展」は、既に発掘された人材が活躍しているなど即効性のある事業として評価を得ました。

しかし同時に、受け入れNGO側についても、ボランティア・コーディネート能力や、活動の魅力を伝えるためのアピール力をさらに高めていく必要があるなどの課題も出されました。

これらの課題も踏まえ、4回目となる2009年度より、「国際協力カレッジ」を「人材発掘・育成」の場と位置づけ、そこに出席するNGOのうち希望する団体に対して、「プレゼン能力」、「ボランティア・コーディネート能力」を高めるため

の「1日事前NGO研修」を設けました。

そして、その研修の成果を活かす場として、「国際協力カレッジ」において、「1日NGO大学」(1日目)、「ボランティア・インターン マッチング展」(2日目)を設定しました。



NGO1 日事前研修

「参加者を眠らせない魅力的な講座の作り方」

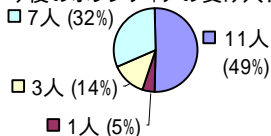
日時：2009年11月5日（木）18:30～21:00
 講師：コミュニティ・ユース・バンク momo 代表
 木村 真樹 氏
 参加 NGO：8 団体 13 名（内主催者側 2 団体 4 名）

人権・平和	アムネスティ・インターナショナル「わや」グループ
フェア トレード	GAIAの会
復興支援	(特活)チェルノブイリ救援・中部
環境	南遊の会
開発	(特活)ホープ・インターナショナル開発機構
政策提言	フィリピン情報センター・ナゴヤ
主催者	JICA 中部
主催者	名古屋 NGO センター

「研修は、今回の講座に役立ちましたか？」との質問に、研修に出席した 6 団体中 6 団体から「役に立った。」との回答を得ました。

「話の組み立てを工夫する参考になった。」「視覚が大切なことを確認したので、さらにパワーポイント研修を受けました。」という感想を頂き、「1 日事前研修」を行うことで、講座の主催側である団体の方々のモチベーションアップ・スキルアップに繋がりました。

【問3】事前1日研修(11/19)「新しい仲間を受け入れるための10か条～ボランティア・コーディネート」にご参加された団体に質問です。研修は、今回・今後のボランティアの受け入れに役立ちそうですか？



- [1] 今回・今後のボランティア・コーディネートに役立つと思う。
- [2] 勉強にはなったが、自分たちの団体では活用できない。
- [3] 参加していないのでわからない。
- 無回答

NGO1 日事前研修 「新しい仲間を受け入れるための10か条～ボランティア・コーディネート～」

日時：2009年11月19日（木）18:30～21:00
 講師：ぼらんぼ開発機構 河合 容子 氏
 参加団体：15 団体 26 名（内主催者側 4 名）

国際交流・多文化共生
・ジャパン・エクスプローラーズ
・多文化共生リソースセンター・東海
教育・子ども
・認定NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN
・NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会
・ニカラグアの会
・日本国際飢餓対策機構
人権・平和・医療
・アジア保健研修所(AHI)
・(社)アムネスティ・インターナショナル日本“わや”グループ
環境・その他
・(特活)アルシュ(自立を支援する会)
・コミュニティ・ユース・バンク momo
・南遊の会
・(特活)名古屋 NGO センター
自治体・JICA・協力隊
・(財)名古屋国際センター
・(財)愛知県国際交流協会
・JICA中部

「研修は、今回・今後のボランティアの受け入れに役立ちそうですか？」との質問に、研修に出席した 14 団体中 11 団体から「今回・今後のボランティア・コーディネートに役立つと思う。」という回答を頂きました。コメントとしては、「ボランティアを受け入れるための 10 か条を考えることで、今自分たちが何をすべきか明確になり大変よかったです。」「コミュニケーションのとり方の参考になった。」といった感想がありました。

「ボランティアとは」という根本的なことから、「ボランティアとの関わり方」、「自分たちのあり

方」について改めて考える場となりました。

国際協力カレッジ 2010 < 1日 NGO 大学 + ボランティア・インターン マッチング展 >

日時：2009年11月28日（土）10:00～16:30
 11月29日（日）13:00～17:30
 会場：JICA中部 なごや地球ひろば
 主なターゲット：国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員に関心がある、学生（特に大学2年生）・若い世代。

参加者数：のべ165人（1日目96人 2日目69人）
 参加費（資料代等）：2日間通し：1,000円
 <部分参加＝1日目：800円 2日目：500円>
 *2日間通しで出席した参加者には「国際協力カレッジ2009」の修了証を発行。

学ぶ1日 11月28日(土)「1日NGO大学」開講!

1・2時間目

シンポジウム「国際協力で働くには～NGO、国際機関、青年海外協力隊、フェアトレードの現場から」

<ゲスト>

- ・ 江口 由希子 氏【JICA青年海外協力隊OG、外国人親子の子育てサロン主宰】
- ・ 上清水 温子 氏【(特活)ソムニード 職員】
- ・ 木村 瞳 氏【(有)フェアトレーディング「フェアビーンズ なごや地球ひろば店」店長】
- ・ 佐藤 健 氏【(財)豊田氏国際交流協会 職員】

<コーディネーター>

- ・ 希代 翔 【(特活)名古屋NGOセンター 理事 / 多文化共生サークルsmile代表】

3・4時間目

地域NGOの話を知ろう!! 選べる「テーマ別NGO講座」

参加団体：7団体(名古屋NGOセンター加盟団体より公募)

テーマ	団体名
A:人権・平和	(社)アムネスティ・インターナショナル 日本“わや”グループ
B:政府開発援助 (ODA)	フィリピン情報センター・ナゴヤ(NCPC)
C:環境	南遊の会
D:フェアトレード	GAIA(がいあ)の会
E:復興支援	(特活)チェルノブイリ救援・中部
F:多文化共生	多文化共生サークルsmile
G:貧困	(特活)ホープ・インターナショナル開発 機構

出会う1日 11月29日(日)「国際協力分野のボランティア・インターン マッチング展」

1・2時間目

ミニ講演会「国際協力ボランティア体験談～動くことで見えてきたもの～」

<ゲスト>

- ・ 内藤 希代子 氏【JICA青年海外協力隊 スリランカ派遣(2007～2009年)村落開発普及員】
- ・ 堀尾 直子 氏【(特活)アジア日本相互交流センター[ICAN ボランティア] * 昨年の「国際協力カレッジ2008」参加者】

<コーディネーター>

- ・ 門田 一美 【(特活)名古屋NGOセンター 職員】

3・4時間目

国際協力分野でボランティア・インターンしよう! 「国際協力分野のボランティア・インターン マッチング展」

参加団体：22団体 (中部地域の国際協力団体に公募)

国際交流・多文化共生
(1) ジャパン・エクスプローラーズ
(2) 多文化共生サークルsmile
(3) 多文化共生リソースセンター・東海
(4) ピースボート(ピースボートセンターなごや)
教育・子ども
(5) 認定NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN
(6) オヴァ・ママの会
(7) NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会
(8) ニカラグアの会
(9) 日本国際飢餓対策機構

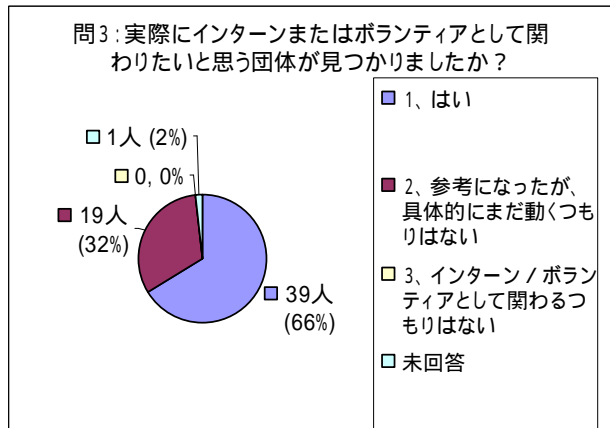
(10) バングラデシュ保育園の会(BNSAの会)
(11) (特活)ホープ・インターナショナル開発機構
人権・平和・医療
(12) アジア保健研修所(AHI)
(13) (社)アムネスティ・インターナショナル日本 “わや”グループ
環境・その他
(14) (特活)アルシュ(自立を支援する会)
(15) コミュニティ・ユース・バンクmomo
(16) (特活)チェルノブイリ救援・中部
(17) 南遊の会
自治体・JICA・協力隊
(18) (財)名古屋国際センター
(19) (財)愛知県国際交流協会
(20) JICA中部
(21) JICA青年海外協力隊
(22) (特活)名古屋NGOセンター



評価と課題:「ボランティア・インターン マッチング展」に関して、66%(39人)の参加者が「実際にインターン・ボランティアとして関わりたいと思う団体が見つかった」と答えました。

参加団体向けのアンケートの中で、「実際にボランティア・インターンを希望する人は見つかりましたか?」という質問に、約6割の団体が「実際にボランティア・インターンを希望する人がいた」と回答しました。

また、「お互いのニーズに合ったまさに「マッチング」の良いイベントでした」という感想をいただきました。実際に、「カレッジの参加者が早速ボランティアとして活躍している」との団体から嬉しい報告もいただいております。即効性のある人材発掘・育成効果をあげています。



国際協力カレッジの課題としては、2日間の大イベントの運営は、想像以上に負担が大きかったことです。夏ごろから、インターン、理事の協力を得て、職員がそれぞれ分担しましたが、他のイベントのピークとも重なり、負担は相当なものでした。次年度は1日に凝縮し、繁忙期である11月を避け、12月に開催時期変更する予定です。

7-3 地域 NGO の「広報力」を高める研修 ~プロのアドバイスを受けてパンフレットをつくる研修

時期: 2009年6月25日~12月17日 全7回

場所: 新JICA中部 参加費: 無料

定員: 中部地域のNGO、11団体

概要: この研修は、加盟団体の方から頂いたご意見を参考にして作られた研修です。「団体紹介用のパンフレット」は、活動を広めるために最も必要なツールの一つです。しかし、多忙かつ資金不足の中で、後回しになってしまいがちです。少しでもその解決につなげたいという思いで発案し、JICA 中部

との共催で実現しました。

原則として、パンフレット作成にかかる費用は全額補助されます。NGO 向け研修の多くは、担当者が「受けて終わり」になりがちであり、団体内にフィードバックすることは容易ではありません。よって、「成果物」付き、つまり成果を研修の中に組み込むことで「受けて終わり」ではなく成果物を団体にフィードバックできる「成果物付」研修を目指しました。

参加団体

全国的にも反響が大きく、NGO のみならず、他地域や他セクターからの問い合わせがありました。

最終的に応募団体は 21 団体となり、選考の結果、以下 11 団体の参加が確定しました。

参加団体

アジア日本相互交流センター・ICAN

イカオ・アコ(Ikaw Ako)

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

ACF JAPAN (ASIAN CHILDREN FUND) アジア子ども基金

オリーブジャパン国際開発協力協会

また、これまで NGO 研修に参加する機会が少なかった中小規模の地域 NGO の方々にお申込頂きました。

キャン・ヘルプ・タイランド(C.A.N.H.E.L.P Thailand)

国際子ども学校を支援する会

国際相互理解を考える会

多文化共生リソースセンター東海

NIED・国際理解教育センター

フィリピン情報センター・ナゴヤ(NCPC)

計 11 団体 20 名

評価と課題：この研修の主目的は、パンフレット作成ではなく、そのプロセスにおいて、団体の活動・目的を振り返ること、ターゲットを絞り込むこと、プロのデザイナーと仕事を共にすることでした。

結果的には、全ての団体がパンフレットを完成させ、これらの主目的を達成することができました。

以下は、参加団体用の評価アンケートを一部抜粋したものです。

【質問】 この研修は、貴団体の活動目的や活動内容をふりかえる機会になりましたか？

【回答】

1. 団体の活動目的や活動内容をふりかえる機会になった。	10 団体
2. 団体の活動目的や活動内容をふりかえる機会は持てなかった。	1 団体

【1の理由】

- ・ この研修を通して、団体の活動について研修に参加した者だけでなく、主とするメンバーで考えを整理する機会にすることができたから。
- ・ 団体内の活動内容も見直しや分岐点に差し掛かっていることもあり、パンフレット作成にあたって、各プログラムを見直すきっかけにもなりました。
- ・ 内容活動を文章化することで、どんなことの為に、どんな手段で、何をしたいのか、改めて考えさせられた。具体的な言葉(単語)で、活動を説明できるようになった。

【2の理由】

- ・ 活動目的、活動内容に関しては、団体内で共有されているので、改めて振り返ることはありませんでした。広報の目的に関しては十分振り返り、考えることができた。

なお今回は団体用パンフレットを作成したため、各団体の個人作業が主でした。NGO が複数集まっているという合同研修の強みを活かすため、

次年度は協働作業を主とした研修を予定しています。

7 - 4 東海地域 NGO 活動助成金

実施概要

公募期間：1/8(金)～1/26(火)必着

公開プレゼンテーション：

・日時：2/27(土)13:30～16:00

・場所：COMBi本陣N106

宗教学法人真如苑と名古屋NGOセンターとの協働事業として実施しました。助成資金は真如苑からの

寄付によるものです。公募の結果、14件(うち、加盟団体10、その他の団体4)の応募がありました。外部有識者等による選考委員会での厳正なる審

査の結果、以下の5件に対して各20万円の助成が決定しました。

助成先一覧		
団体名	事業名	助成金額
(特)チェルノブイリ救援・中部	放射能汚染地域における農地復興支援	20万円
日本バングラデシュ友好協会(JBCS)	バングラデシュの白内障の患者さんに光を	20万円
(特)平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会	出張展示・貸出展示の体制整備(第1期)	20万円
財団法人アジア保健研修財団アジア保健研修所(AHI)	「アジアの子ども」を活用した国際理解教育	20万円
(特)アジア日本相互交流センター	「東海フェアトレードフォーラム'11」の開催	20万円

評価と課題:

昨年度は、(A)事業実施助成(上限20万円)と(B)組織強化助成(上限10万円)の2つの助成枠を作りましたが、(B)枠への申請が少なかったことから、今年度は(A)と(B)を統合して一つの枠(上限20万円)としました。申請のあった14件はすべて事業の実施であり、組織強化のため

の申請はありませんでした。

助成が決まった5団体のうち、2団体が昨年と同じ顔ぶれだったことから、助成金の申請に慣れない団体を対象に、助成金の書き方セミナーを開催してはどうかという声があがっています。

7-5 インターン・ボランティア育成

実施概要:

以下の6名のインターンを受け入れました。

評価と課題:

3ヶ月以上かつ週15時間以上を条件に、個人のインターンを受入れています。団体からの依頼については、短期間でも受け入れを検討します。

上記の条件であれば、随時受け入れを行っていますが、周知されていないことから、インターン

を公募することにしました。4名から申込みを頂き、うち3名を採用しました。

団体からの依頼のあったインターンも含め、責任感のある人ばかりで、担当した仕事をしっかりとやり遂げてくれました。

受入れ一覧			
氏名	個人/団体名	期間	主な担当
1、木村 瞳	(有)フェアトレーディング	4/1~5/31 週2日	ホームページ
2、今野 宏	(特)パートナーシップ・サポートセンター	8/6~28 計5日	全体
3、栗宇 香織	個人(大学4年生)	5/22~3/30	国際協力カレッジ/広報研修
4、ノーティリ・メイヤー	個人(大学4年生)	5/7~7/31 週2日	ボラみ展
5、肥夏 美優	個人(大学3年生)	7/30~10/31 週2日	Nたま
6、伊藤 優佳	Nたま	9/1~3/17 週2日	東海地域NGO活動助成金 / 国際理解教育セミナー

8. その他の活動

8 - 1 「ステファニ・レナト賞」事務局

実施概要：第6回目となる今年は、20件の応募の中から初の外国人受賞となるMoazzem Hossain 医師（バングラデシュ）（推薦団体：日本バングラデシュ友好協力会（J.B.C.S.））が受賞し、10/24（土）に表彰式が行われました。

評価と課題：表彰式では、J.B.C.S.のメンバー20名ほどの方々が駆けつけてくださり、長年の活

動をアピールしていただく絶好の機会となりました。また、実行委員の所属団体にご協力を頂き、広報の強化を行い、12件のご寄付を頂きました。来年も引き続き、賞の存在をより知って頂けるよう広報に努めたいと思います。

名古屋NGOセンターは「ステファニ・レナト賞実行委員会」より事務局を受託しています。

8 - 2 会員募集

実施概要：

募集は通年行っています。正会員については、理事会での審査が必要です。

正会員：46 団体（うち、新規 3、退会 1）

維持会員（個人・学生）：103 名（うち、新規 22）

維持会員（団体）：1 団体（うち、新規 0）

評価と課題：

これまで正会員の会員規約がなかったことから、関西 NGO 協議会の規約を参考に、正会員の会員規約を作成し、入会にあたっての審査基準を明確にしました。

正会員は順調に数を伸ばしていますが、残念ながら維持会員については、個人・学生数は伸び

悩み、団体については昨年度同様の結果でした。維持会員数の拡大に向けて具体的な計画を立てることが必要です。

領収書発行などの日常的な業務は、ボランティアの藤縄牧子さんにご協力を頂いて実施しました。残念ながら、藤縄さんが2月末で遠方に引っ越されることになり、後任の方を公募したところ、12名の方から申し込みを頂きました。うち1名を採用し、3月より藤縄さんが担当していた業務を櫻井宣子さんに引き継いで頂きました。

8 - 3 総会・理事会・常任理事会

実施概要：通年

定期総会を5月23日に開催し、総会終了後、加盟団体や参加者の交流をするため、「NGOとのランチ交流会」を開催しました。また、理事会を6回、常任理事会を月に一度の12回開催しました。また、毎月の報告を簡潔に分かりやすくするため月ごとの「個別事業報告」を作成し、理事会と常

任理事会で共有しました。

評価と課題：今年度前半に常任理事会と理事会の役割について議論し人事案件や緊急性を要する課題についてなどの決済方法を明確にしました。しかし依然として、常任理事会での決裁事項が多く、審議に時間がなくなってしまうことが課題です。

実施概要：通年

ボランティア：近田千波（会計）
石川博仁（PC）

助言：中島 正（社会保険労務士）
倉地茂雄（税理士・監事）

実施概要：会計については、日常的な帳簿処理は、長年関わって下さっている会計ボランティアの近田千波さんに日常的な記帳等をお願いしました。また、パソコンの環境整備については、Nたま1期生の石川さんにご協力頂きました。

評価と課題：2008年度総会にて、職員の給与水準が低いことを指摘する意見が出され、それを改善する一つの方策として、職員賞与寄付が設けられました。36万円の目標金額に対し、29万8000円の指定寄付を頂きました。心より感謝申し上げます。

また労務面においては、社会保険労務士の中島正さんより助言を受け、育児・介護のための勤務時間短縮制度を設け、「21世紀職業財団」の助成金を頂くことができました。

インターンやボランティア、関係者の方々のご協力により事務局業務の負担軽減に大きくつながりましたが、依然として資金不足を補うための受託事業等などによる多忙さにより、年休消化もままならず、体調を崩す職員が出てしまいました。

他地域や他セクターから要請されてやらざるを得ないこと、「やるべきこと」、「やりたいこと」など多々ありますが、人も資金も限られています。ミッション性と財政面とを考慮し、「やれること」を冷静に見極め、活動の優先順位をつけていく必要があります。

(2) 2 0 0 9 年度会計報告 / 監査報告

事業報告

上記のとおり報告いたします。

2010年3月31日

理事長 西井 和裕

事務局長 小池 康弘

監査報告

2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター計算書類を監査した結果、適正であることを認めます。

監事 倉地 茂雄

監事 赤羽 一郎

以上

(3) 2010年度事業計画

重点目標・方針

2010年度は名古屋NGOセンター中期計画(2009年～2011年)の2年目にあたります。

中期計画の5つの重点項目()を達成するため、以下の3つの目標・方針を掲げます。この3つの目標・方針につながるよう、各事業を組み立てていきます。

1. 加盟団体どうしの協働を引き出す役割を担います。

加盟団体同士の顔のつながりが更に深まるよう、加盟団体同士の協働を引き出す役割を担います。

「地域NGOの広報力を高める研修」「横のつながりを作る勉強会」「国際協力カレッジ」「連合メーデーのブースコーディネート」等をその具体的な場とします。

2. COP10を通して国際協力NGOの役割を再確認し、NGOの存在を市民社会へアピールします。

2009年度に実施した活動の中で、生物多様性が

保全された社会とNGOが目指す社会は一致し、生物多様性の保全に貧困の撲滅が重要な関わりを持つことを一部の加盟団体と環境NGOの皆さんと共有しました。

このことを更に多くの加盟団体と共有し、COP10を通してNGOの存在を市民社会にアピールします。「NGO研究会」「CBD市民ネットワークの貧困作業部会への参加・参画」「ワールド・コラボ・フェスタ コラボ・ワクワク体験村」等をその具体的な場とします。

3. センター内部の横のつながりをつくり、人材育成に力を入れます。

センターに関わる内部の人々が顔の見える関係を構築できるよう、多くの機会や事業間連携を増やし、内部で人材の交流を図ることによって、人材を育成し、チームワークのある名古屋NGOセンターの基礎を構築します。

「さんぐりあ」における委員会便りやインタビュー、ボランティアスキルアップ勉強会、「Nたま×ワクワク体験村」「COP10×ワクワク体験村」等をその具体的な場とします。

中期計画(2009年～2011年)の重点項目

今後3年間の重点項目を以下の5項目とそれを実現するための組織作りとし、達成目標を具体化し、その実現を図っていく。

重点項目1：NGOの活動を支えるとともに、団体の自己解決能力やネットワーク作りを推進する活動

重点項目2：NGOの活動を支える人材を育成し、育成された人材のNGOへの参加を促進する活動

重点項目3：広報や開発教育を通じて、市民や企業、その他セクターのNGOへの理解を進め、NGO活動への支持・参加・協力を促進する活動

重点項目4：活動する市民/団体(NGO/NPO)の意見を反映し、目指すべき社会を見据えた提言活動

重点項目5：NGO活動とネットワークの活動を支える資金を安定して調達できるようにする活動

1. ネットワーキング

NGO間、あるいは、NGOと人びと、行政などの他セクターをつなぐネットワークを作る活動

1-1 NGO サポート事業(通称 N サポ)

実施時期：通年

計画概要：過去3年間、NGO サポート事業を実施し、累計22件に実施させて頂きました。これまでサポートは、NGO側からの要望にお応えする形で作ってきました。また昨年度は、3人の職員で8件の案件を行ってきましたが、より丁寧で集中したサポートを行いたいという職員の声がありました。また、外部者に資金協力を得るためには、各案件についてより一層わかりやすい成果とインパクトを出す必要が出てきます。よって、これまでの案件の傾向より、2010年度は、3つの課題(会計・広報・ファンドレイジング)に分類し、名古屋 NGO センターの持てる資源を集中させて、

じっくりと取組みたいと思います。

また、サポートの中で資金があれば、より成果を出せる案件もあったことから、資金的なサポートができるよう、各案件につき10万円の予算をつけ、外部講師への謝金、会計ソフトの購入やリールレット作成の費用負担を行う点が、これまでとは違った点です。

案件募集時期は、2010年7月で各課題別に合計3件を募集します。

なお、2009年度のNサポについては、案件によってはサポート後のフォローアップを実施する予定です。

1-2 NGO スタディツアー合同説明会

実施期間：6月5日(土)

計画概要：JICA中部なごや地球ひろばを会場として、この地域のNGOが企画する海外(主に開発途上国)へのスタディツアーに参加を呼びかけ、国際協力やボランティアのはじめの一步を踏み出すきっかけづくりを行います。

前半は以前にツアーに参加した方の報告の時間を設け、後半は加盟NGOがブースを出展し、説明を行います。また、ツアーには参加できないけれど、NGOについて詳しく知りたいという方の質問を受け付ける相談コーナーを設置します。

1-3 「横のつながりを作る勉強会」の呼びかけ、参加

実施期間：5月、7月、9月、11月、3月(1月は、NGOの集いがあったため、延期)

計画概要：2008年9月よりスタートし、隔月開催で8回実施しました。

2010年度も引き続き、隔月で開催する予定です。勉強会と言いましても、活動上での悩みを話したり、一般的な社会の問題に触れることも多く、

参加者同士のつながりを深め、お互いの活動を支えることも大きな主眼となっています。そういった面も鑑み、テーマは、その時その時の参加者で決めていくというスタイルを続けています。今年度も、多くの参加があるように、広報活動などに務め、またその成果を広く共有できたらと考えています。(執筆協力：ニカラグアの会 伊藤幸慶)

1-4 ネットワークNGO調整会議参加

実施期間：年2回

計画概要：外務省NGO相談員の会合などを利用し、地域ネットワークNGO調整会議を開催する予定です。調整会議には、事務局職員が参加しま

す。ネットワークNGOの組織運営や財政基盤の確保など、全国のネットワークNGOと意見交換をしながら、共通の課題を解決していくための糸口を見出していきます。

1-5 COMBi本陣運営委員会参加

実施概要：奇数月、第4水曜開催

計画概要：COMBi本陣(地域密着型ビジネス支援施設・事務所入居施設)の運営委員会に参加し

ます。施設運営における課題や入居団体との交流、地域住民へのアピール(文化祭・11月)の計画などを行います。

1-6 インターナショナル・チャリティ・フェスティバル(ウォーカソン)への出展

実施期間：5月23日(日)

計画概要：鶴舞公園にて開催される、19回目の名古屋ウォーカソンに昨年と同じくブース出展する予定です。ウォーカソンはチャリティウォー

クイベントで多くの外資系企業、企業関係者の家族、市民などが参加します。企業や市民に向けて地域のNGOの活動をアピールします。

1-7 実行委員会、会議への派遣

今年度派遣する予定の実行委員会、会議等は以下の通りです。

実施期間	会議名	担当者
通年	なごや環境大学 実行委員	西井理事長
通年	(特活)レスキューストックヤード評議委員	村山事務局長代理
通年	JICA 組織力アップ!NGO人材育成研修	竹内理事
通年	NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会 コーディネーター	西井理事長
通年	NGO・外務省定期協議会 NGO連携推進委員 副座長	野田理事
通年	外務省 ODA 評価有識者会議 委員	野田理事
通年	NGO・JICA 定期協議会 コーディネーター	龍田副理事長
通年	ワールド・コラボ・フェスタ実行委員	清家理事
通年	国際理解教育セミナー in なごや実行委員	斉藤委員
通年	愛知県 NPO アドバイザー ((特活)ボラみみより情報局受託)	門田事務局次長

1-8 「ステファニ・レナト賞」事務局

実施期間：通年

計画概要：今年で第7回目となるステファニ・レナト賞ですが、HPや助成財団センター、関係団

体への広報の強化を行い、よりたくさんの団体からご応募いただくよう工夫します。

1-9 「連合メーデー」のブースコーディネート

実施期間：2010年4月24日(土)

計画概要：愛知県中央メーデー実行委員会が主催し、久屋大通公園・久屋広場にて開催される今年の「連合メーデー」NGOブース10団体の出展調

整・集約等を行います。労組組合員や市民などより多くの人々にNGO活動を知っていただけることを目的としています。

1-10 生物多様性条約(CBD)市民ネットワーク作業部会への参加

目標：生物多様性市民ネットワークの「貧困・開発」作業部会(仮称)に参加し、貧困・開発活動における諸問題を解決するための提言を行います。

活動予定概要：(特活)国際協力NGOセンターJANICが立ち上げる予定である作業部会に参加し、提言のための勉強会・会議等に参加します。

1-11 (特活)アルシュ(自立を支援する会)人材育成セミナーへの協力

実施期間：6月(全2回)

計画概要：(特活)アルシュ(自立を支援する会)が開催する「気軽にはじめる途上国支援セミ

ナー～自然災害時における危機管理～」の広報や運営に協力します。

2. コンサルティング

市民やNGOとの対話を通じ、NGOの組織・運営・活動の向上をはかる活動

2-1 NGOに関する相談

実施期間：通年（5月～3月は「外務省NGO相談員」制度を活用）

計画概要：今年も、「外務省NGO相談員」制度を活用し、中部地域におけるNGO・国際協力活動について相談を受け付ける予定です。月平

均50件の相談件数を目指し、ホームページなどでの広報をより積極的に行います。また、「出張相談サービス」制度をより積極的に活用し、JICAや学校機関との協働を行います。

2-2 訪問受入・セミナー等講師

実施期間：HP等での広報を行い、学生の訪問受け入れ、講師派遣などを積極的に実施します。

3. 情報収集・発信

NGOの持つ情報・経験を収集し、地域やNGOへ積極的に発信する活動

3-1 ホームページ

実施期間：通年

実施概要：昨年度の合計アクセス件数、月平均 934 件でしたが、今年度は月平均 1000 件をめざし、アクセス数の増加に努めます。そのために、より頻度の高い更新をし、加盟団体のイベント・ボランティア募集情報等を多数掲載し、NGO に興味を持ちはじめた人、

活動を始めたい人、寄付等の支援をしたい人が気軽にNGOに参加できるようにすることをコンセプトにホームページの充実を図ります。

更新ボランティア：行方宏美、石川博仁

3-2 書籍コーナー

実施期間：通年

計画概要：事務所に来て頂いた方に、書籍コーナーの書籍をご活用いただきけるように、

貸し出し帳を使いやすく改善し、スムーズな貸出しが行える環境を整備します。

3-3 『名古屋 NGO センターNEWS』のメール配信

実施期間：通年

計画概要：会報誌を季刊発行とするのに伴い、『情報コーナー』を『名古屋 NGO センターNEWS』としてメール配信に切り替えます。加盟団体のボランティア募集やイベント等のお知らせ

せは、情報が届き次第すぐにメール配信します。今年度は、イベント等で『名古屋 NGO センターNEWS』を積極的に広報し、登録者数の増加に努めます。

3-4 会報『さんぐりあ』発行・発送 / 会報編集委員会

メンバー：市川隆之、大倉亜也加、鎌倉志保、神谷歩実、雑賀昭、佐藤則子、中山雄史、丹羽輝明、額公一、久由紀枝、古川アンナ、水谷洋子、吉川陽子、ワング・ベン

目標：

名古屋 NGO センターの活動への理解を広げる。

加盟団体のスキルアップ、広報支援を行う。

活動予定概要：

年 4 回(16 ページ)発行します。4 月(既刊)、7 月、10 月、12 月(または 2011 年 1 月)に発行する予定です。1 号につき、企画会議 進捗確認会議 締切会議 レイアウトチェック会議 最終確認

会議の5回の会議を行います。

一部のページの字が小さいという意見を受けて、文字数を減らしてフォントを大きくします。

さんぐりあを活用していない加盟団体も多いことから、活用を呼びかけます。校正、紙面構成などの勉強会を行います。

会報『さんぐりあ』の編集作業は会報編集委員会で行っています。

4. 調査研究

地域や世界の動きをモニターし、発掘した情報を整理、分析してNGO活動に役立てる活動

4-1 重点課題に関する情報の分析および共有

実施期間：随時

計画概要：名古屋NGOセンターが取り組むべき重点課題（政策提言、国際理解・開発教育、NGOサポート等）に関する、トレンドや政策に関する

情報の収集・蓄積および分析を行う。これを通じて、センターおよび加盟団体の活動の方針・実施に資するよう、成果を共有するとともに、その担い手を育てる。

4-2 外務省NGO研究会（COP10）

実施期間：6月～3月

計画概要：10月に名古屋で開催される生物多様性条約締結国会議（CBD-COP10）に向けて、地域NGOとともに勉強会や調査研究を行い、生物多様性条約に謳われている途上国における社会開発と貧困撲滅への取り組みの重要性とそれに果た

すNGOの役割について学びあいます。また、環境系NGOとの新たなネットワーク作り、市民に持続可能な社会作りを担うNGOの活動と環境との関わりを知ってもらうためのフォーラム等を開催します。

外務省NGO研究会の受託決定後、実施が確定します。

5. 政策提言

政治や行政の場に、あらゆる人びとの声が政策決定に活かされるような提言を行う活動

5-1 NGO・JICA定期協議会

実施期間：4回（年）

計画概要：JICAとNGOの対話チャンネルの場。NGOとJICAが対等な立場で議論を深め、協力と改革を進めていきます。今後政権交代によってNGOの存在が大きくなり、NGOへの大型案件委託事業

などが話し合いの中心になることが予想されます。しかし、名古屋の立場として中小のNGOが参画できるスキームなどにも踏み込みます。

5-2 外務省との政策協議（ODA政策協議会 + NGO連携推進委員会）

実施期間：7回（年）

計画概要：外務省定期協議会の全体会および二つの専門委員会である、ODA政策協議会および連携推進委員会の運営に、加盟団体とコミュニケーションを密にしながら、中心的な役割を果たします。ODA政策協議会では、コーディネータとして、

日本のODA政策を市民の視点でチェックし、意見が反映されるよう、市民に開かれたかたちで協議を実施し、提言します。連携推進委員会では、副座長としてNGO全体の調整を行いつつも、とりわけ加盟団体および日本の多数を占める地域の中

小の NGO の視点に立ち、市民社会の発展や途上国の草の根レベルの人間の安全保障実現のための支援において、NGO と外務省が「緊張感ある対等

なパートナー」として連携できるよう、提言していきます。

5-3 不連続学習会

実施期間：随時

計画概要：適宜、重要課題となっているテーマを設けて学習会を開催し、地域の市民、NGOと共

に政策提言のあり方を考えるための場です。今年度はCOP10やCSRとBOP(Bottom of Pyramid)ビジネスなども考えていく予定。

5-4 政策提言委員会

目標：政府機関との協議会に参加し、国際協力のよりよいあり方について、市民、NGO の立場から政策提言を行います。地域の課題に対して政策提言を行います。

活動予定概要：政策提言に関する専門委員会として、主に政府機関との協議会や評価への参加、不連続学習会の開催、JANIC が行う「援助効果に

関する調査・提言活動」への協力を行いません。JANIC、関西 NGO 協議会、ODA 改革ネットワークと共同で「ODA 改革パブリックフォーラム」を開催します。

また、地域の NGO との対話を進め、協働の基盤づくりに取り組みます。

6. 開発教育 / 国際理解教育

地球上の多くの人々が直面する貧困・抑圧・差別などの問題と、私たち自身の暮らしのあり方との密接な関係について、理解を広げ、行動を起こすための活動

6-1 ワールドコラボフェスタ

実施期間：毎月1~2回（実行委員会・企画会議への参加）10月23日、24日（フェスタ当日）

計画概要：昨年同様、名古屋国際センター、愛知県国際交流協会、JICA中部、なごや国際交流団体協議会（NIA）とともに実行委員会の一員として参加し、清家理事が実行委員となり意思決定に参画します。

名古屋NGOセンターの担当する企画は、もちの木ひろば「総合受付」、「コラボ・ワクワク体験村」、セミナースペース「NGOプチ入門

講座」、オアシスコラボひろば「名古屋NGOセンターブース」、「コラボリレープロジェクト」の5つです。

コラボ・ワクワク体験村は、ボランティアを募集し、開発教育・国際理解教育委員会と共に企画を創り上げます。テーマを「生物多様性の保全とCOP10」として、来場者が楽しく学べるものとします。

なお、コラボ・ワクワク体験村は、H22年度地球環境基金助成事業として行います。

6-2 国際協力カレッジ

実施期間：12月11日（土）予定

場所：新 JICA 中部（笹島）

実施概要：JICA 中部との共催で、今年で5回目となります。

新しい JICA 中部の施設にて、前回と同様の「テーマ別 NGO 講座」「ボランティア・インターン マッチング展」を実施する予定です。今年は1日開催を予定しています。

なお、出展団体に向けた、1日事前研修「参加者を眠らせない魅力的な講座の作り方」「新しい仲間を受け入れるための10か条～ボランティア・コーディネーター～」も好評につき、今年度も継続する予定です。

6-3 国際理解教育セミナー

実施期間：実行委員会（通年）セミナー当日（1月29日（土））
実施概要：例年同様、（特活）NIED 国際理解教育センター、名古屋国際センター、愛知県

国際交流協会、JICA 中部、と実行委員会を構成し、セミナーを開催します。国際理解教育の裾野を広げることを目的に、初心者を対象としたワークショップを実施します。

6-4 講師・ファシリテーター派遣、小中学生の事務所訪問対応

実施期間：通年
計画概要：京都精華大学（集中講義）愛知高校、名城高校などに開発教育委員会および

加盟 NGO より講師を派遣します。また、小中学校より依頼のある、小中学生の事務所訪問を随時対応します。

6-5 NGO入門講座

実施期間：年2回
計画概要：Nたま説明会やワールド・コロボ・フェスタなどのイベントと連携し、NGOに関心の

ある市民向けにNGOの理解を深める講座を行います。

6-6 国際理解・開発教育委員会

目標：昨年度作成した、委員会のミッションやこれまでの歩み、成果などを紹介したリーフレットをイベントや講師派遣の折には委員会活動がより多くの人々に理解され、活用されるよう働きかけます。また、中期計画でもあった学校との関係作りに積極的に取り組んでいきます。

活動予定概要：09年度に引き続き、月例委員会を基本に全体の調整を図ります。また、通常は平日の夜に行われている委員会の曜日や時間帯を変えて、事業の課題についてゆったり話し合えるような工夫をしたり、新たに関心を持った人が参加しやすいようなミニ・ワークを実施したりして、親しみやすく分かりやすい委員会運営に心がけていきます。

7. 人材・活動育成

地域の人々のNGO活動を生み出し、育む活動

7-1 次世代のNGOを育成するコミュニティ・カレッジ（通称Nたま）

実施期間：5月 - 3月
計画概要：昨年度実施したBコースプログラムの充実（ワールド・コロボ・フェスタ「ワクワク体験村」との連携、事務所訪問ツアーによる加盟団体理解）を進め、Nたま生がより活動を始めやすくなる基盤作りを行います。また、Aコース

のメンバーには、引き続き、進路の相談やNGO活動と自身のキャリアについてなど、一人ひとりに決め細かいフォローを行っていきます。

Nたま開催8回目を迎えるにあたり、時代やニーズの変化に合わせたプログラム全体について改善点の話し合いを行います。

7-2 インターン・ボランティア育成

実施時期：通年
計画概要：NGOの活動を学びたい意志を持つ希望者をインターン生として受け入れます。インターン生との面談を頻繁に行い、研修中にしっかりと

目的に応じて学ぶことができる環境作りを行います。大学等からの短期の依頼についても、積極的に受け入れます。

7-3 地域NGOの「広報力」を高める研修 2010 ~ 地下鉄広告で、NGOをPRする研修 ~

時期：2010年6月～12月 全7回
場所：JICA中部
参加費：無料
定員：12団体

計画概要：この研修は、加盟団体の方から頂いたご意見を参考にして作られた研修です。昨年度は「団体紹介用のパンフレット」を作成し、11団体がパンフレットを作成しました。団体

パンフレットという性格上、他団体と取り組むというよりは、自身の団体での単独プレーが主軸でした。今回は、他団体と協働して、もう一歩先の新たな広報媒体に取り組むことを目的にします。

具体的には、「地下鉄広告」を予定しています。10月～11月の間、学生の多い鶴舞線の6両編成全車両の小枠にNGOの認知度アップ広告を掲載します。対象者別に6つのチームを設け、それぞれ

2団体ずつ募集します。そして、協力しながら、それぞれの対象者ごとにキャッチフレーズを作成します。

また、地下鉄広告には団体名を掲載できないため、専用ホームページを名古屋NGOセンターのホームページ内に作成し、その中で団体紹介等を行います。

7-4 東海地域 NGO 活動助成金

実施時期：秋～冬

計画概要：昨年度と同様に名古屋NGOセンターと宗教法人真如苑（総本部：東京都立川市）

の協働事業として実施します。助成資金については真如苑からのご寄付を頂いて行います。

7-5 JICA「組織力アップ！NGO人材育成研修」への協力

実施時期：4月～3月

計画概要：昨年に引き続き、JICA地球ひろば主催の表題研修への協力を行います。竹内理事が検討委員として参加し、研修へのアドバ

イス、講師を努めます。また、事務局は広報協力を行います。

8. その他の活動

8-1 会員募集 / 寄付金募集

実施日時：通年

計画概要：今年度も昨年ご支援を頂いた企業等へ引き続きご支援をいただけるよう訪問などを通して働きかけをしていきます。また、維持会

員（個人）の方々には、継続してご支援いただけるよう会報を通してわかりやすく事業内容を伝えられるよう努力し、会員更新の願いには直筆のメッセージを添えます。

8-2 後援・協力等

実施日時：通年

計画概要：加盟団体事業の後援、協力を積極的に行っていく予定です。

8-3 総会

実施日時：通年

計画概要：定期総会を5月22日に開催し、会

員間での交流や情報交換を目的とした「ランチ交流会」を実施します。

8-4 理事会

実施日時：通年

計画概要：昨年同様、理事会は5月、7月、

9月、11月、2月、4月の計6回開催する予定です。

8-5 常任理事会

実施日時：通年

計画概要：昨年同様、理事長・副理事長・事務局長・常務理事をメンバーとした常任理事

会を10回程度開催し、迅速な決定、実施がとれるような運営を目指します。

8-6 職員会議

実施日時：通年

計画概要：原則として、常任理事会の約1週間前に月1回程度実施しています。主なメンバーは事務局職員およびインターンです。

常任理事会に諮るべき議題を、事前に職員会議にて話し合い、たたき台を常任理事会に提案しています。さらに、常任理事会に出された議題を、

理事会にて報告・議題として提出するという一連のサイクルができています。

職員会議では、常任理事会の議題以外にも、各職員の担当業務を共有し、1人では解決できないような案件について相談し合う場にもなっています。

8-7 総務・労務・会計・税務

実施日時：通年

ボランティア：近田千波（会計）
石川博仁（PC）

助言：倉地茂雄（税理士・監事）
中島 正（社会保険労務士）

計画概要：前年より引き続き、ボランティアの方々や専門家のお力を借りて、実施してきましたと思います。

労務面では、賞与指定寄付を減額し、かねてから理事会にて検討案件であった中小企業退職金

共済制度に加入することになりました。

また職員体制としては、ベテラン職員1名が約1年間休業します。また、かつ新規の大きな事業を予定しており、職員の負担が増えることが予想されます。

職員が、身体面においてもメンタル面においても疲弊しないよう、仕事が事務局に集中しすぎないように調整し、振替休日や年休消化、残業過多を防ぐよう心がけます。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

(4) 2010年度予算

新 加 盟 N G O 紹 介

ACF JAPAN (Asian Children Fund) アジアこども基金

現在は、ネパール山村にて、マイクロクレジットを主体とした農山村生活支援事業に力を入れています。

牛糞・人糞を使用するバイオガス装置設置普及や、乳牛、ミツバチなどの買い付けに対する無担保貸付業務です。他に、農山村組合への生活指導・教育、農協組織、孤児院への支援を行っています。

2008年に現地政府認可NGOを立ち上げまして、現地のメンバーがほとんどの実務を担っていますが、逆に私たちは、彼らのその活躍に多くを学んでいます。

卵からかえったばかりのヨチヨチ歩きのひよこ団体です。皆様からのご助言・ご指導をお待ちしています。



バイオガス製造の技術指導

- 代表者: 鈴木 まさこ
- 住所: 〒507-0063 岐阜県多治見市松坂町4-8-82
TEL・FAX:0572-27-6453、携帯電話:090-6083-0265
E-mail:mumin1108@sf.commufo.jp
- 連絡担当者: 浅野 みなこ
- 対象・分野:
 - ①海外協力(現在はネパール国が主)、環境・山村教育(農協・子女)・植林
 - ②国内には障害者支援
- 年間予算:約200万円(2008年度)

- 活動内容:
 - ①ネパール山村地域にて
 - *トイレを含めたバイオガス装置普及活動(マイクロクレジット導入)
 - *農協、女性組合の指導・教育
 - ②国内障害者支援
- 関わり方:
 - *企業・個人からの寄付募集
 - *会の運営、イベント、広報誌作成などへの参加
 - *ネパールのNGOへACFの駐在員を派遣

特定非営利活動法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会

「戦争と平和の資料館ピースあいち」は、一昨年5月に開館しました。3階建ての明るい建物で、メインの2階展示室には、「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」の各展示があり、一階は「現代の戦争と平和」が展示されています。各コーナー壁面には写真と図表が、展示台には実物資料が並んでいます。悲惨な戦争の記憶と記録を保存し、若い世代に平和の尊さをよびかけ伝えていく活動をしています。

ピースあいち開館日・時間
火曜日～土曜日(祝日の場合も開館) 午前11時～午後4時



戦争体験の話を聞く中学生

- 代表者:
理事長 森島 昭夫 館長 野間美喜子
- 住所: 〒465-0091名古屋市長東区よもぎ台 2-820
TEL&FAX:052-602-4222
E-MAIL:peace-tk@ivy.ocn.ne.jp
http://www.peace-aichi.com/
- 連絡担当者: 竹内 宏一
- 年間予算:約600万円

- 活動分野:
「戦争と平和の資料館ピースあいち」の運営・広報を中心とした平和のための諸活動
- 活動内容:
07年5月に開館した「戦争と平和の資料館ピースあいち」の運営と広報を中心に、戦争の記憶と記録を管理・保存し、若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを継承していく。
- 関わり方:「ピースあいち」への来館やボランティア活動

新加盟NGO紹介

ミコノの会

20年余り、ケニア北東州ガリッサ県に拠点を置き、校舎建築、井戸掘りを皮切りに、職業訓練(自動車修理・ミシン教室)、奨学金事業等を行ってきました。また、モザンビーク、アンゴラ、ザンビアに対して衣料、文具、車いすなどの支援を行ってきました。地味な、変わり映えしない活動を続ける中、最近奨学金を受けた若者が、地元の市長になるなどの動きが現れてきました。関心のある方はHPをご覧ください。



ミコノの会が掘った井戸を女性が利用

- 住所: 〒509-0305
岐阜県加茂郡川辺町西橋井400
TEL:0574-53-4369
FAX:0574-53-5567
E-MAIL:mikono@mc.ccnw.ne.jp
<http://www.mc.ccnw.ne.jp/mikono/>
- 代表者: 勝村昭俊(会長)
- 連絡担当者: 村島 正(事務局長)
- 対象国: ケニア・ザンビア・タンザニア
- 活動分野: 教育・環境整備・緊急救援
- 年間予算: 800万円
- 活動内容:
アフリカの国々を対象に、教育援助、職業訓練、井戸掘り(ケニア)衣料等援助(ザンビア)を行っています。お互いがより良きパートナーとなれるような活動をめざしています。
- 関わり方:
会員登録、寄付、イベント参加、衣類発送ボランティア

新加盟NGO紹介

バングラデシュの人々を支える会



開校を待ちわびる子供と父兄

「世界は一つの家族である。」を信条とするパートナー ホセイン博士と共に10年余、累計60頭の牝牛を貧困女性に贈与してきました。ミルクの販売、牛の販売などで女性は自分の牛を自分の手で飼育することにより、女性の自助努力に繋がりが女性に目標と希望が持てるように変わりました。また、建設される学校は自分たちの学校としての自覚を促すため、父兄・地元代表・先生による管理委員会を立ち上げ、学校の運営方法を委員に一任することとなりました。物心両面で支援しながらその推移を見守りたいと思います。

- 住所: 尾張旭市北本地ヶ原町2-103
TEL/FAX: 0561-54-5869
E-MAIL: vabw5869@dion.ne.jp
- 代表者: 横山紀子 ●連絡担当者: 裏見登志子
- 対象国: バングラデシュ
- 活動分野: 自立支援 教育
- 年間予算: 850,000円
- 活動内容:
バングラデシュの農村部の貧困女性に牝牛を1頭ずつ贈与し、生活の基盤を作るための支援活動をしています。平成22年度、子供のための識字学校を建設し教育を施します。
- 関わり方:
イベント手伝い、寄付、海外スタディツアーへの参加

「バングラデシュの人々を支える会」は2010年4月から加盟団体となりました。